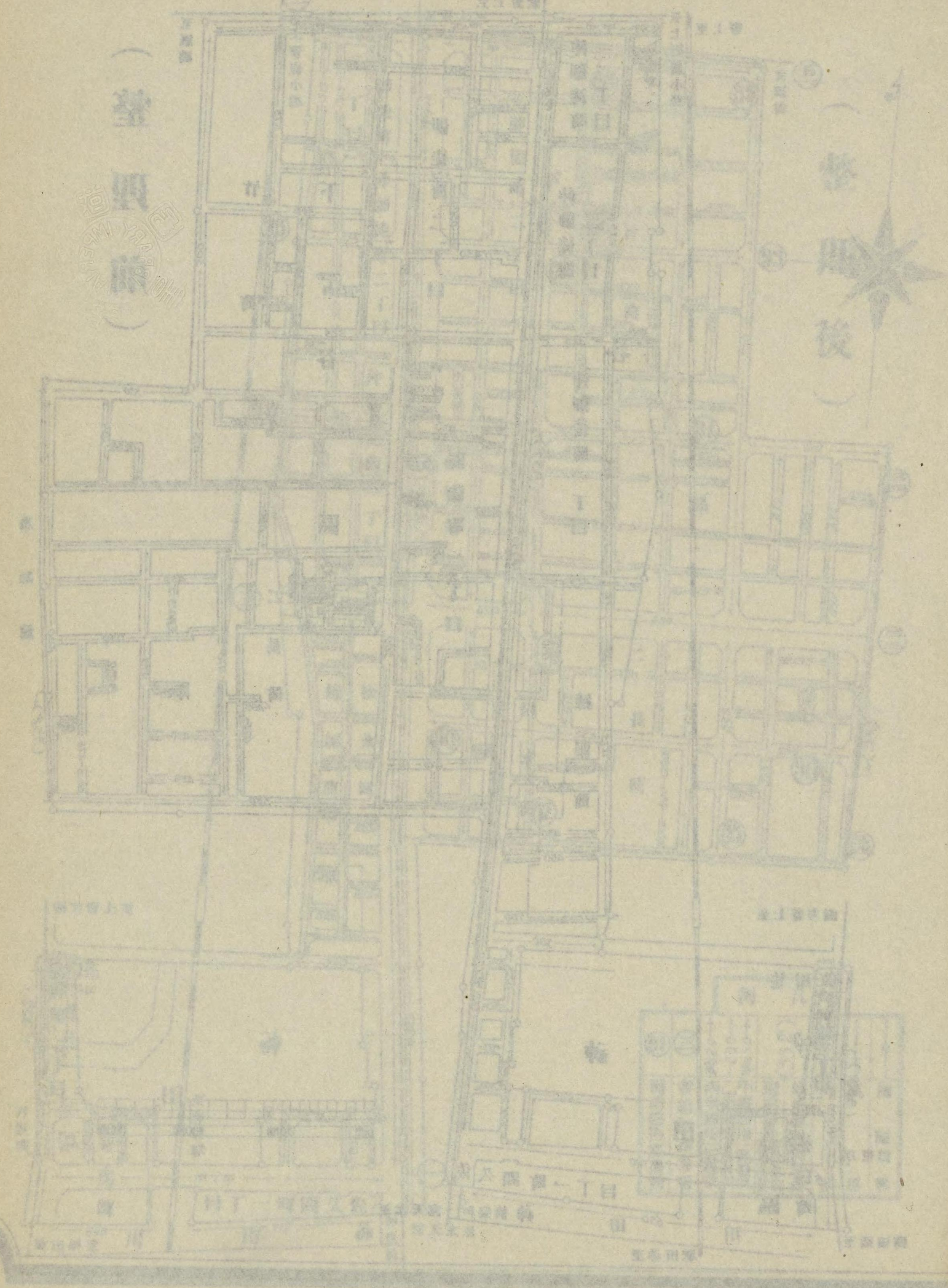


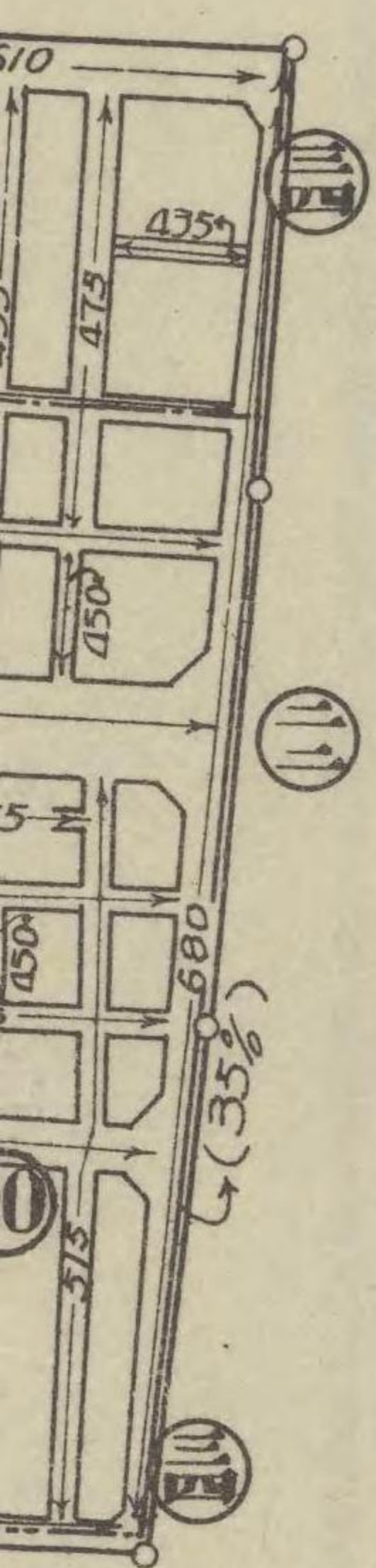
新編後街詳圖



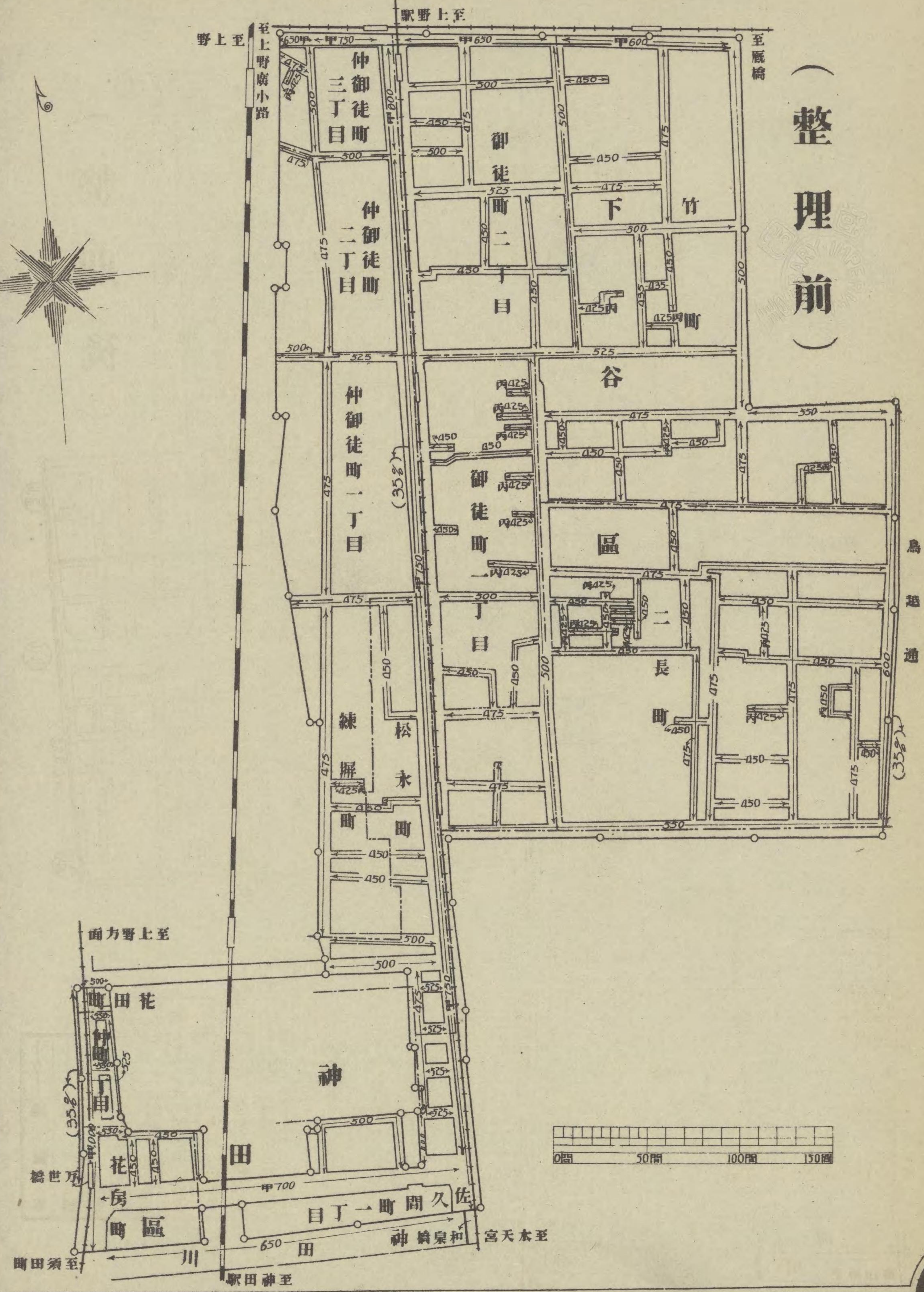
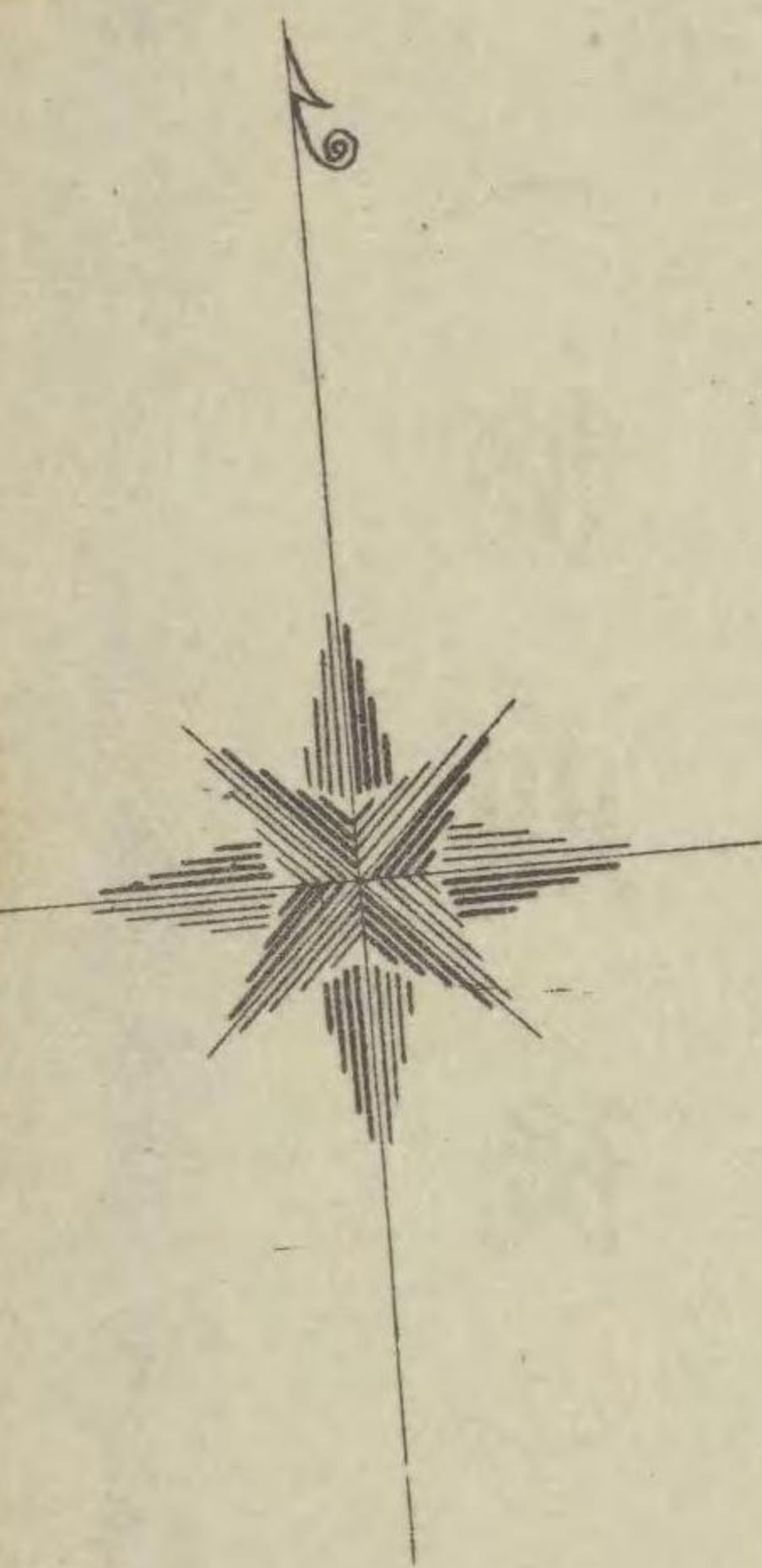


# 第三十一地區整理前

(整理後)

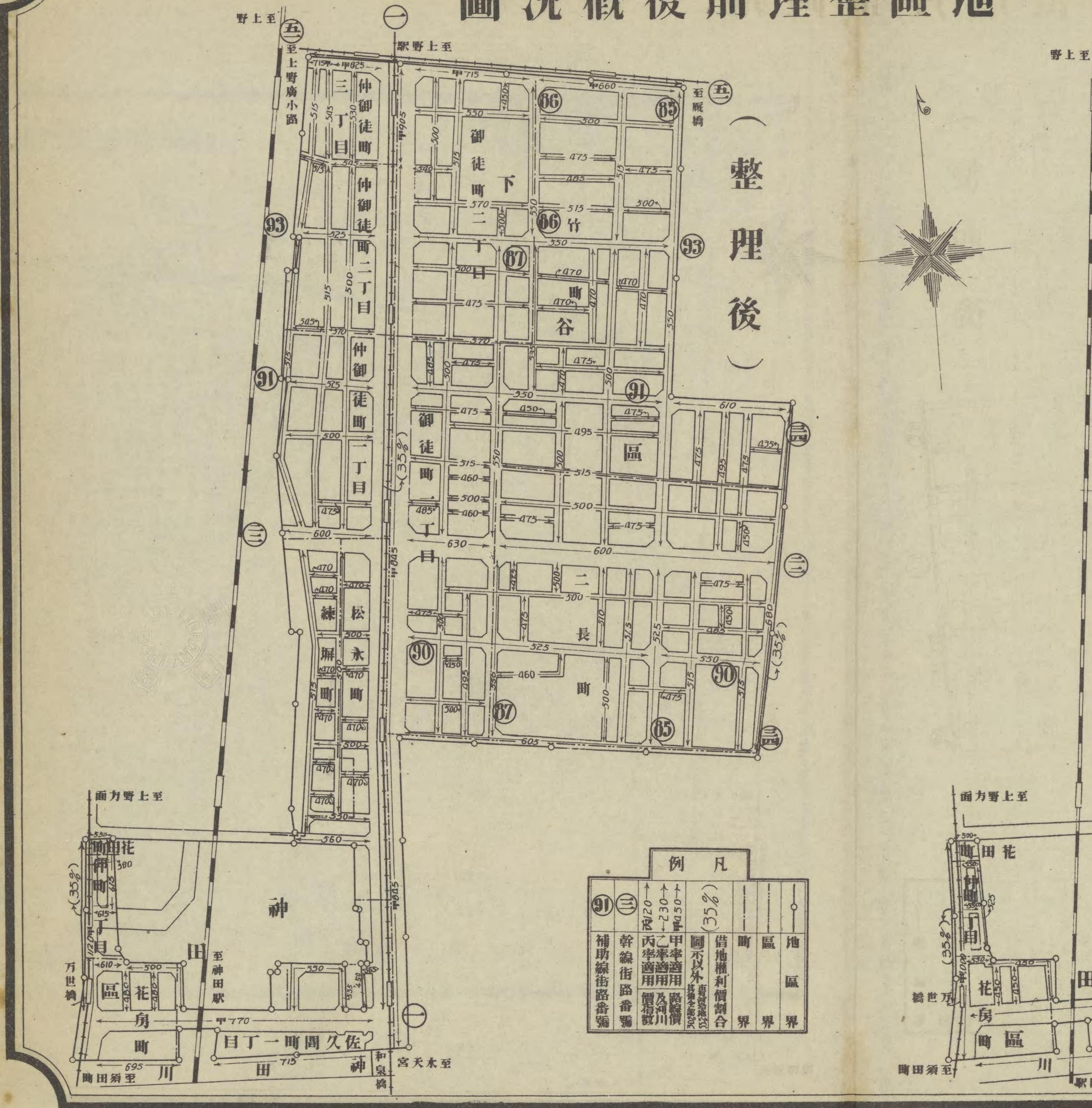


町	區	地
界	界	界





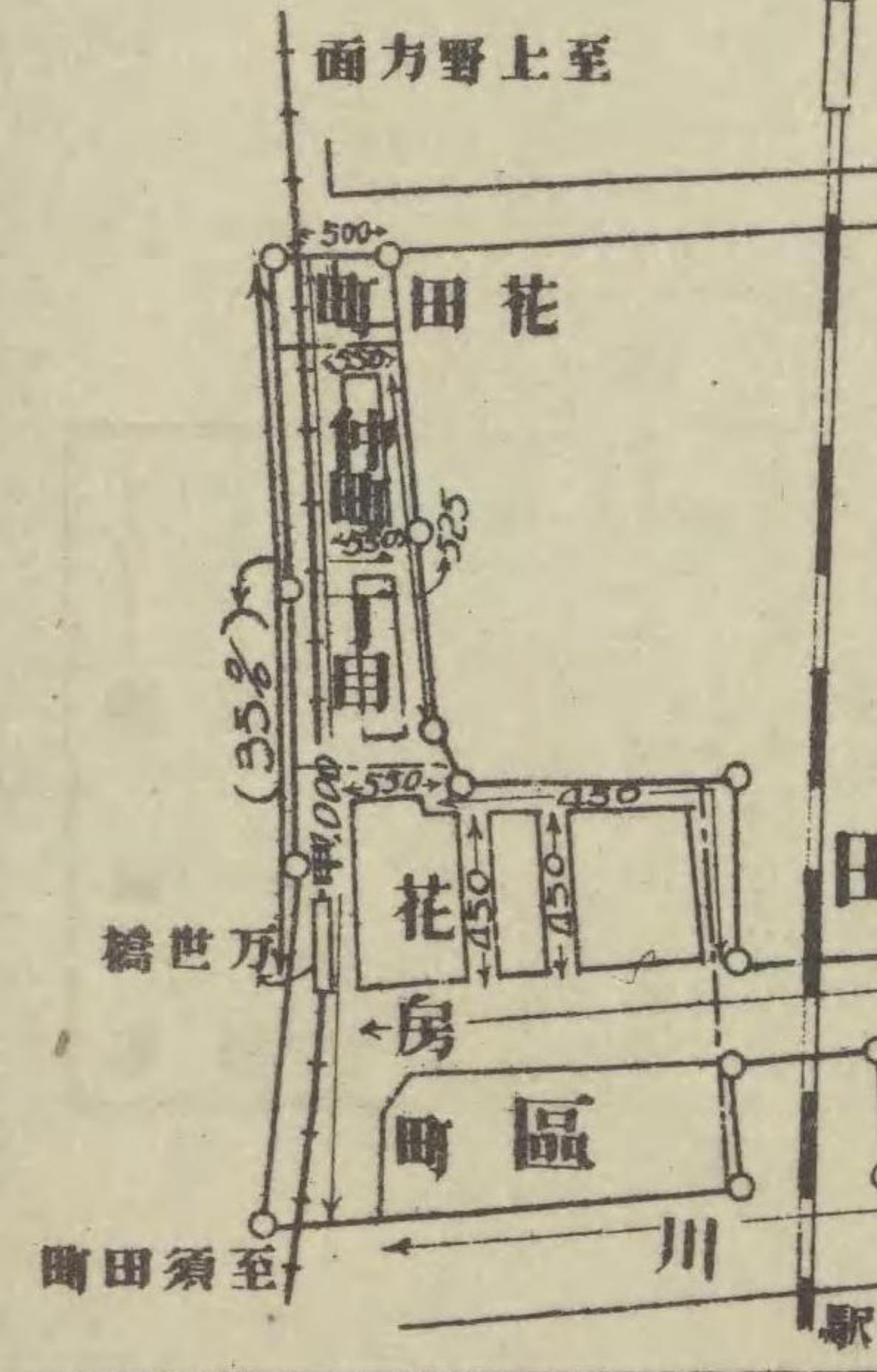
# 第一地區整理前後概況圖



(整理後)

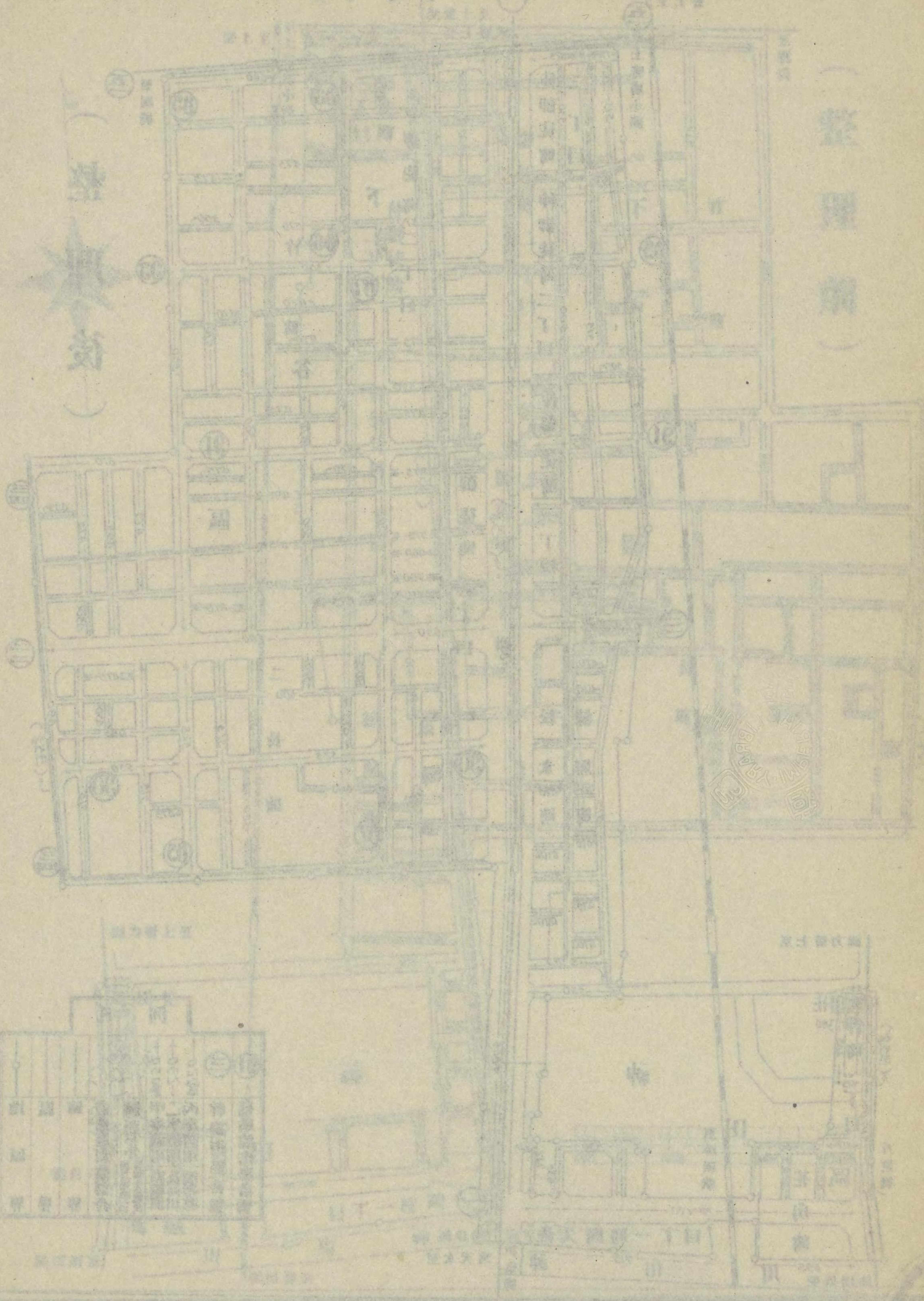
例凡

91	三	20	230	30	35	35%	町界	區界	地區界
補助線街路番號	幹線街路番號	丙率適用	乙率適用	甲率適用	圖示以外	借地權利割合	町界	區界	地區界





圖形分類圖

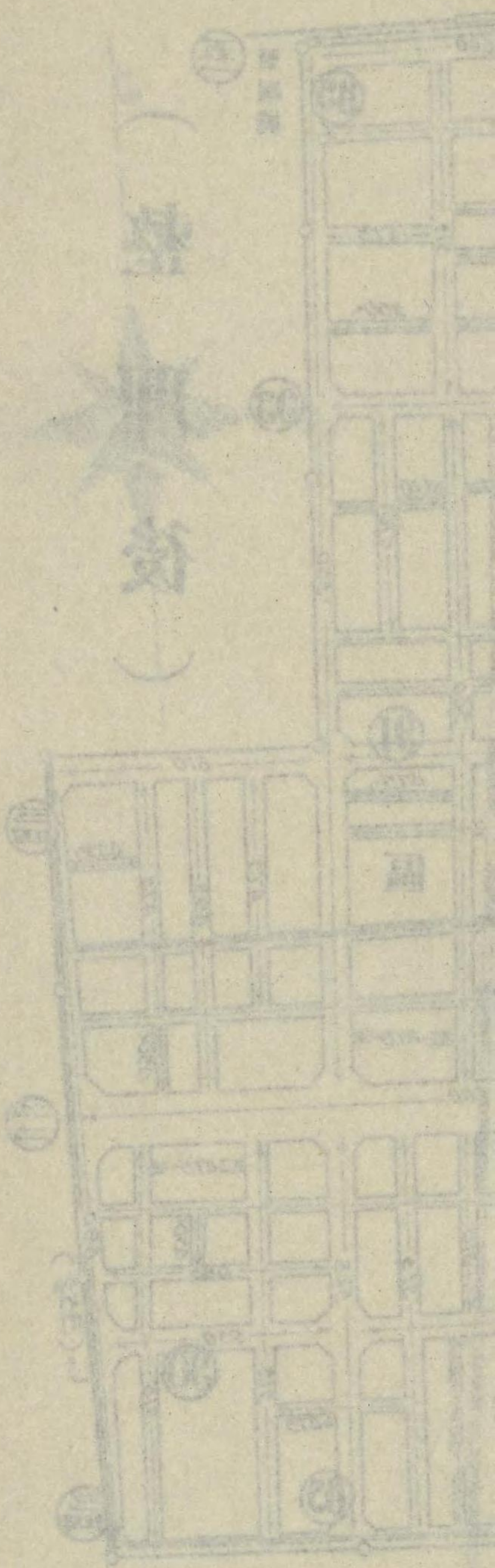


(整理前)

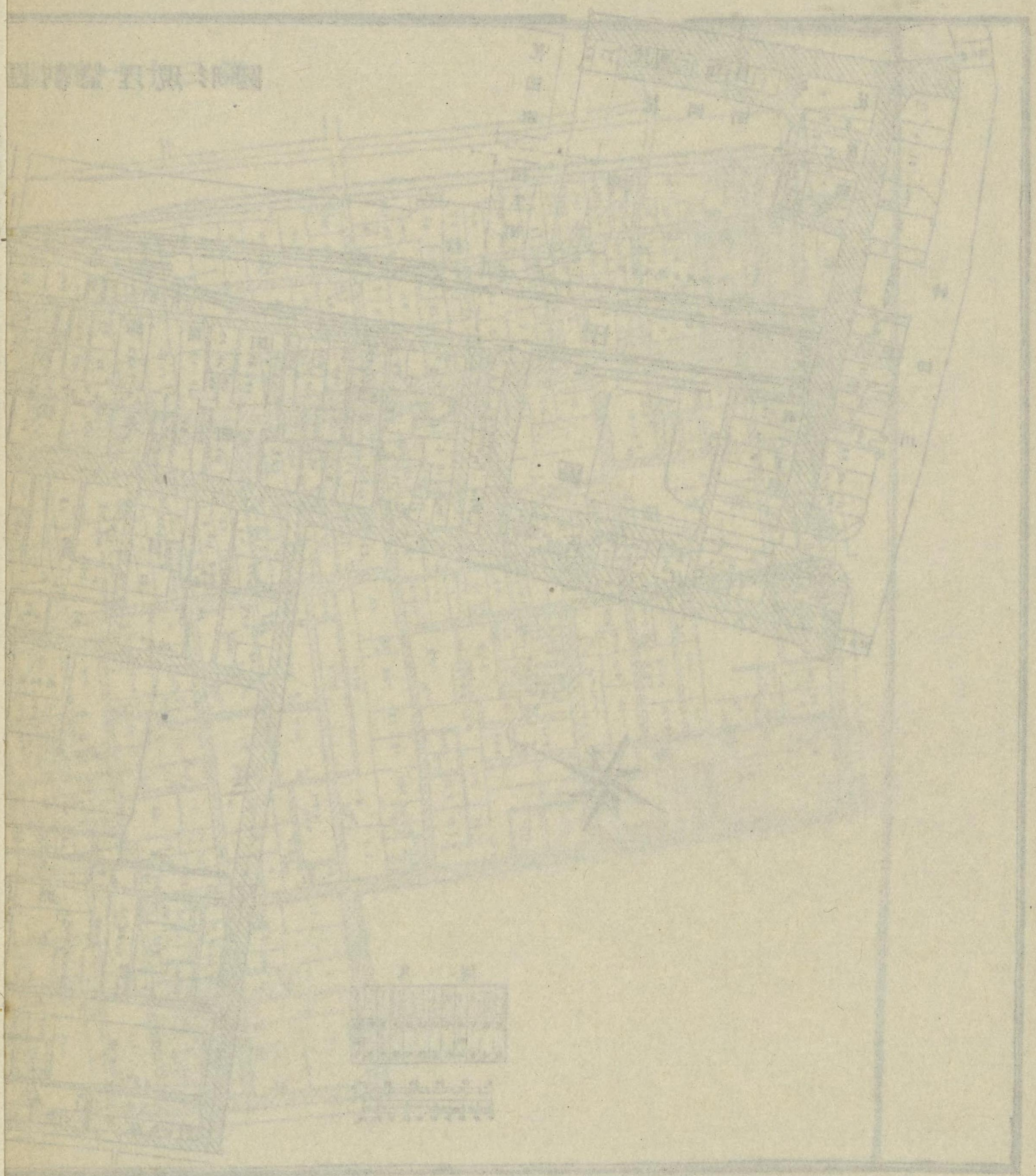
(整理前)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50





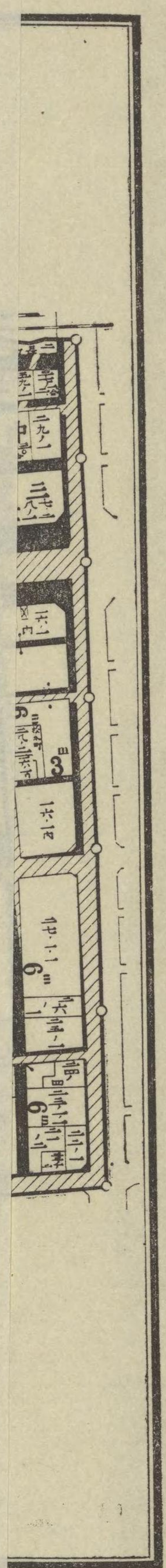
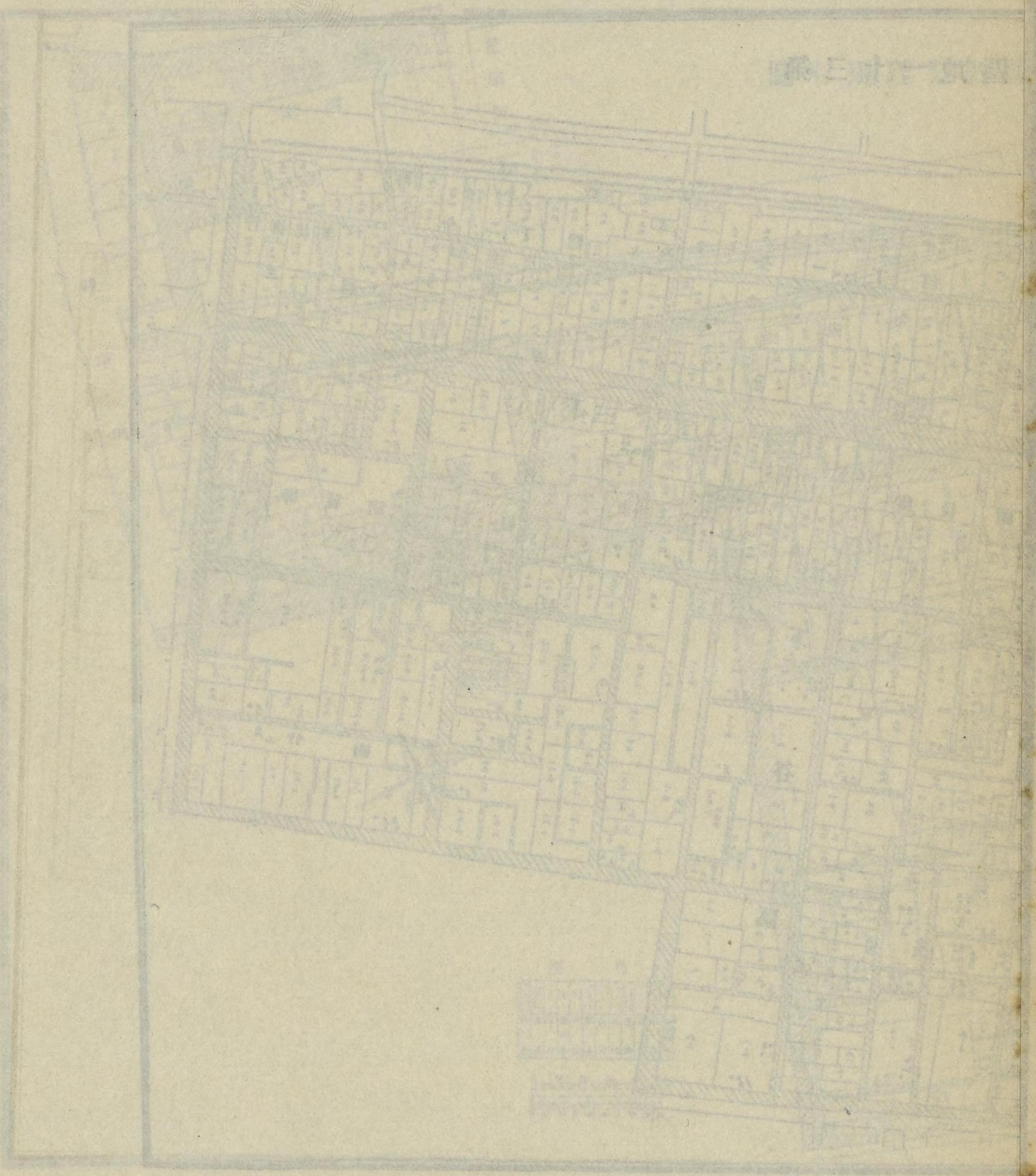
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----



第三十一地區 整理前地區の概況



Handwritten text or stamp at the top center of the page, possibly a date or reference number.



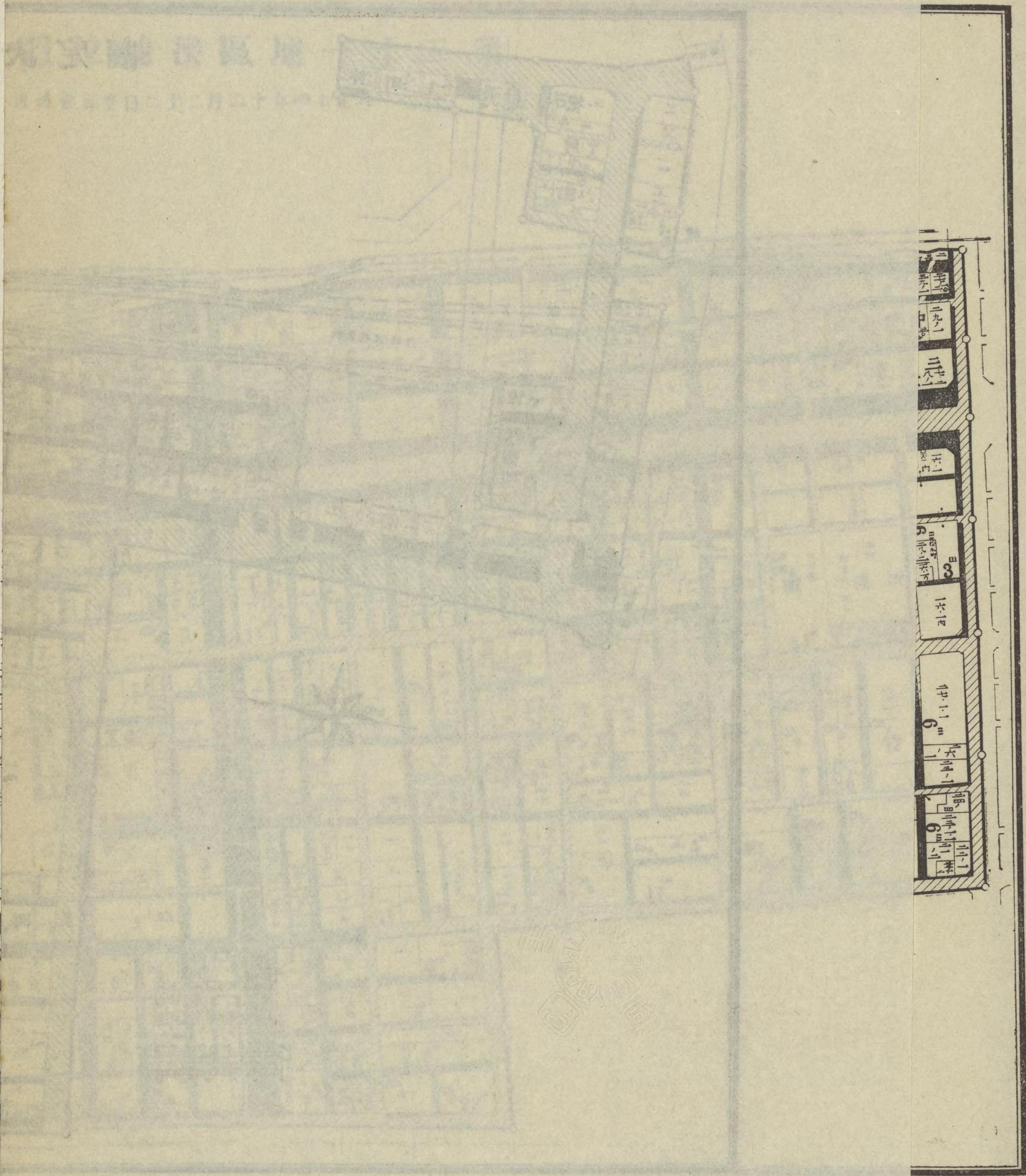


和泉橋通、北部の地區界を爲す厩橋通及東部の地區界を爲す鳥越通は何れも交通多く商

第三十一地區

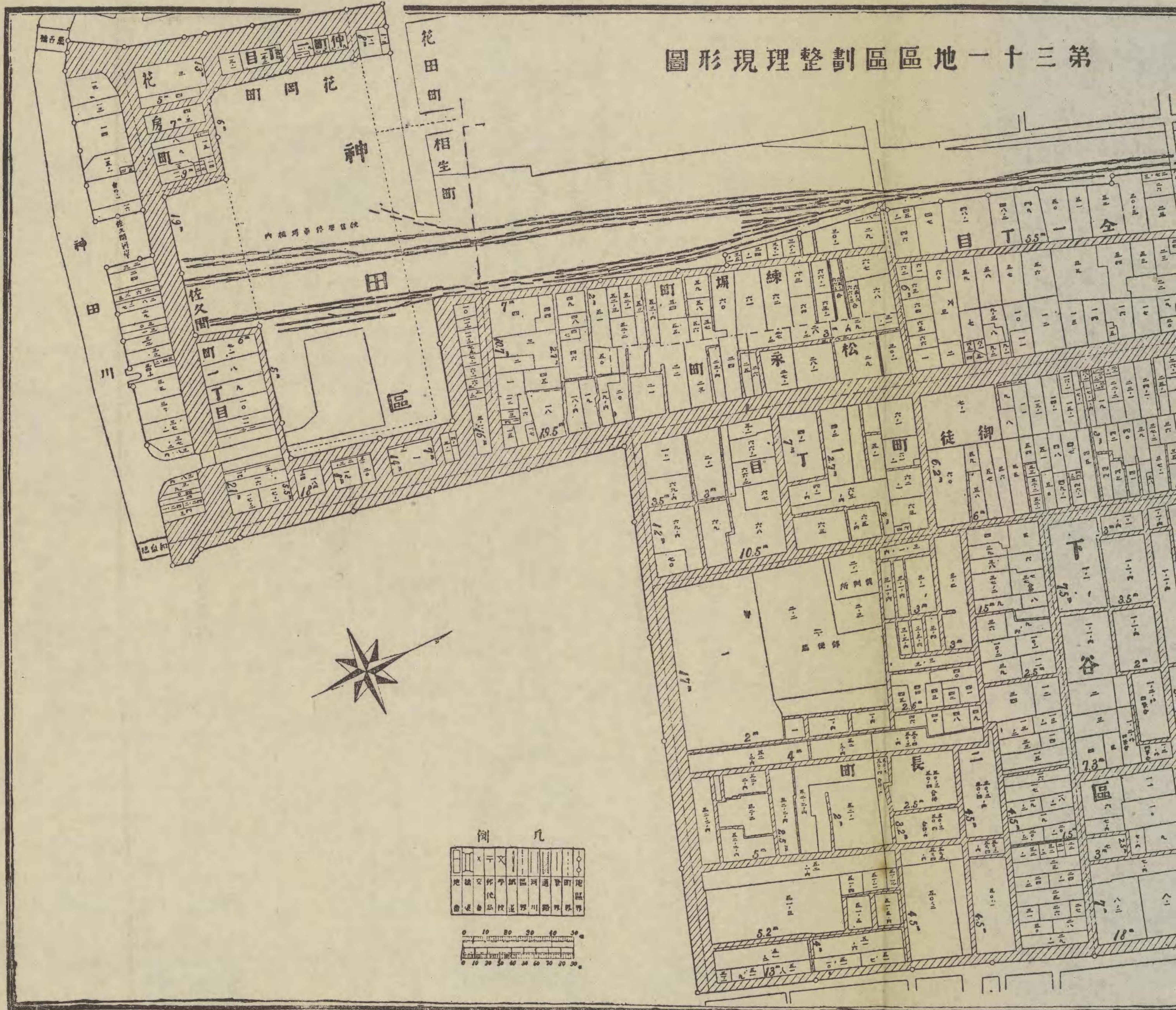
整理前地區の概況

九五七





圖形現理整劃區區地一十三第







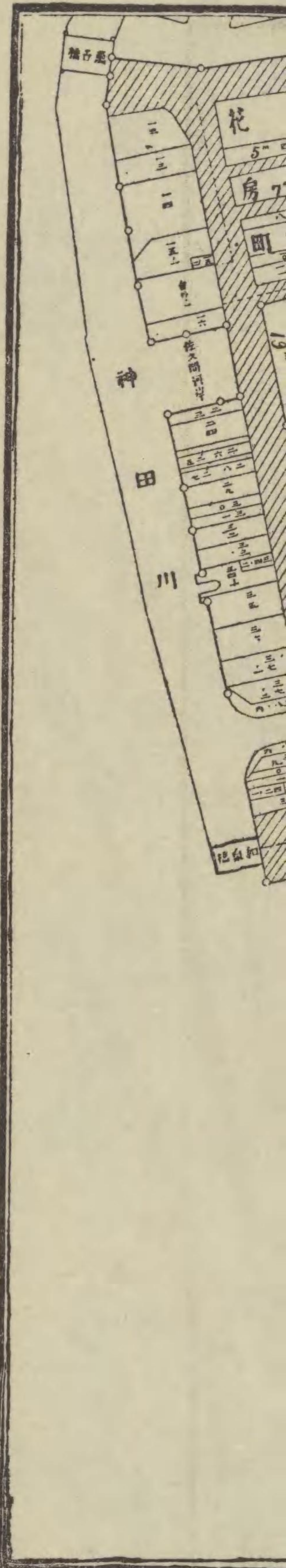
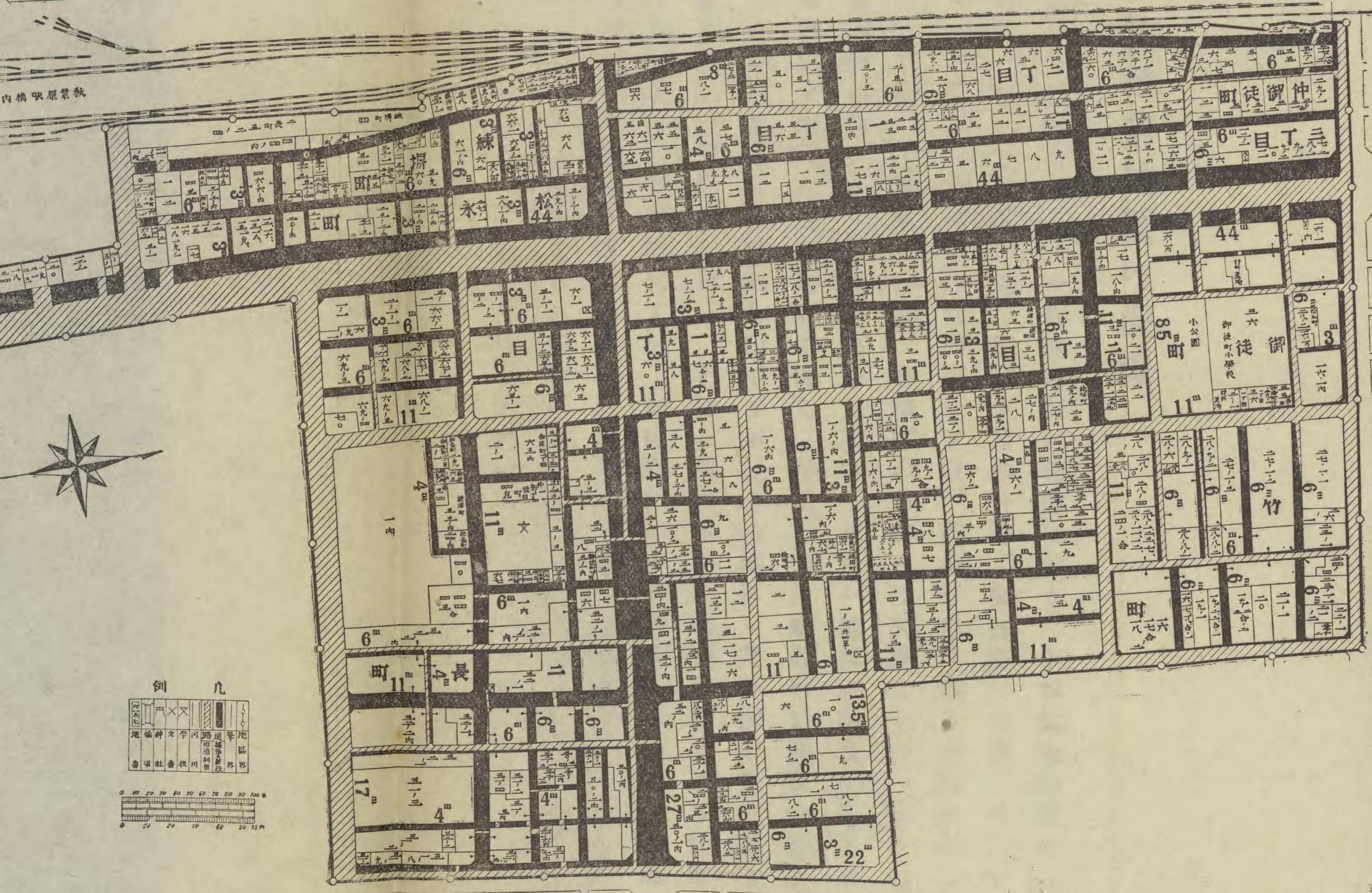


# 圖定決置位地換區地一十三第

決議會員委日二十二月二十年四十正大

中野町

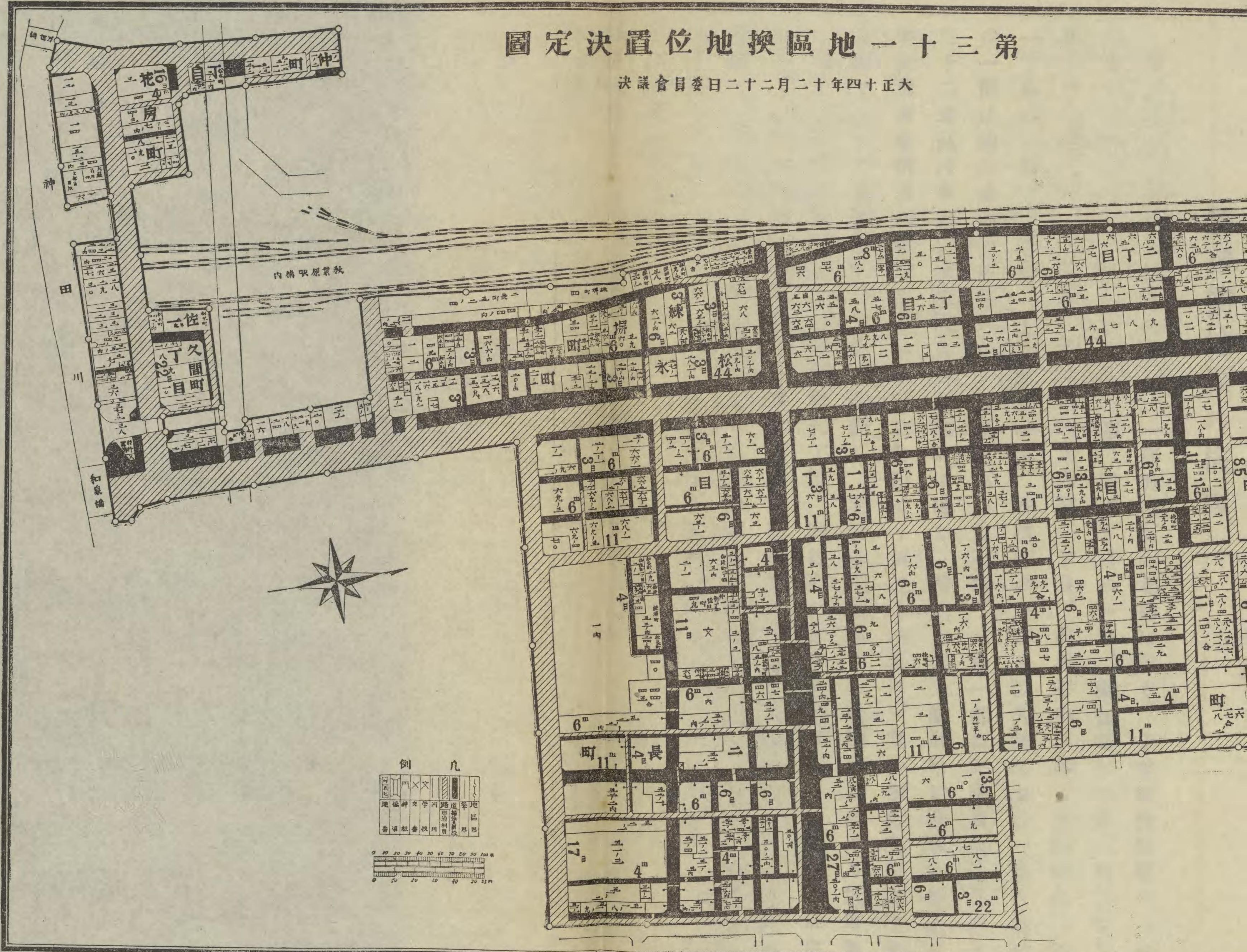
秋原原原原



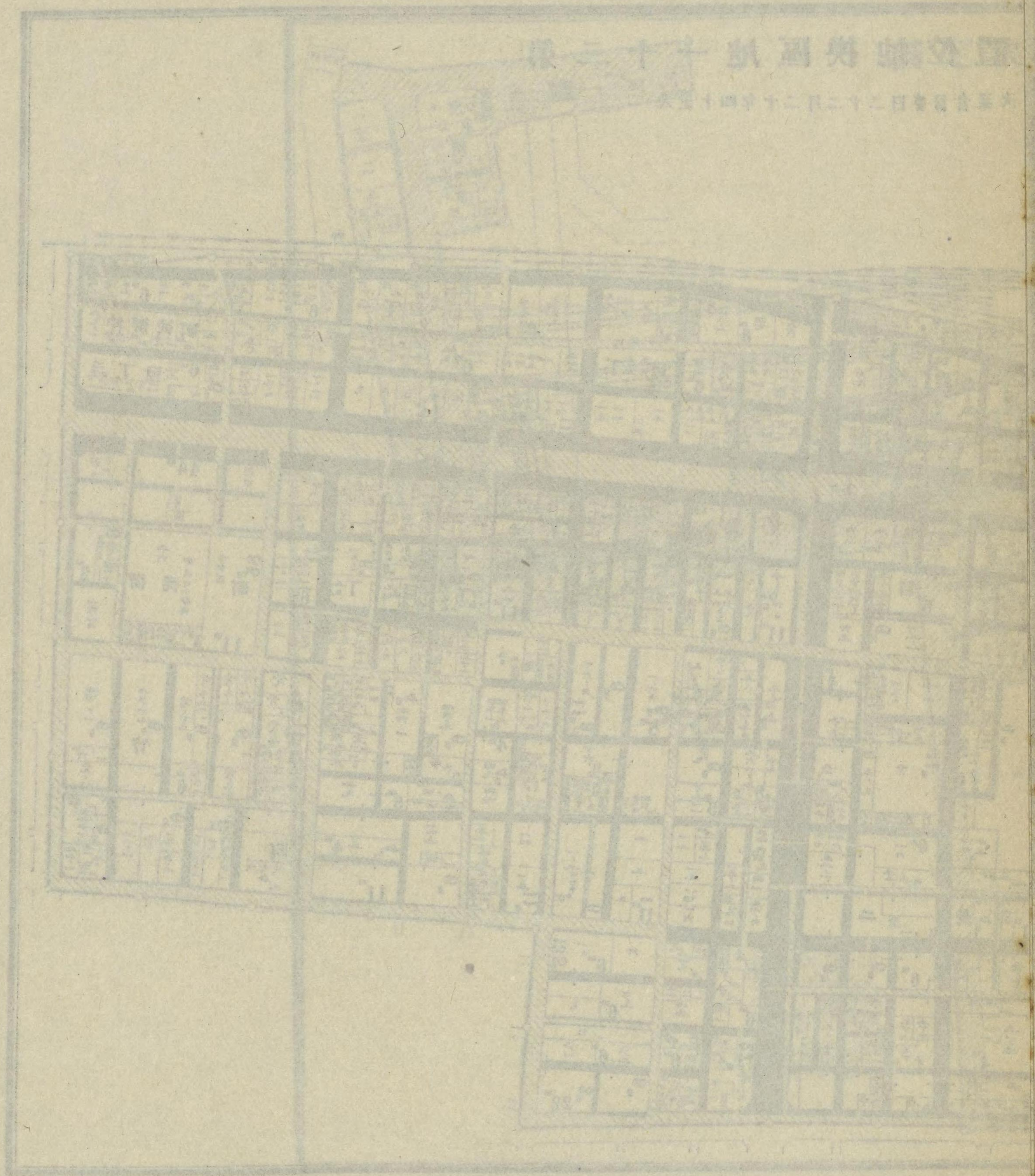


# 第三十一地區換地位置決定圖

大正十四年十二月二十二日委員會議決









## 整理前地區の概況

本地區は下谷區の南部に位し、一部神田區の北部に跨り、下谷區練塀町の一部、仲御徒町一丁目の一部、同二丁目の一部、同三丁目の一部、御徒町一丁目、同二丁目、竹町（但し十二番を除く）二長町、神田區佐久間町一丁目、花房町の一部、花岡町の一部、仲町一丁目の一部、松永町、相生町の一部、花田町の一部及佐久間河岸の一部を包括す、東の一部は除斥地竹町公園を距て、淺草區小島町に、其の一部は通稱鳥越通を界として第三十二地區淺草區向柳原町及西鳥越町に接し、西は大部分鐵道用地（秋葉原驛を含む）及中央卸賣市場神田分場豫定地の除斥地を距て、第三十地區に、其の西南突出部は御成街道を界として同地區仲町二丁目に相對し、北は本郷方面より厩橋方面に至る電車通を界として第三十四地區下谷區仲御徒町三丁目、御徒町三丁目及西町に接し、南の東半部は燒失を免れたる神田區和泉町に、西半部は神田川を距て、第八地區及第九地區柳原河岸に相對す、形狀南北に長さ不整形をなし其の地勢一般に平坦なり、地區の總面積は十五萬八百五十八坪一合三勺にして、之に所在する建物總棟數は四千六百九十一棟なり、而して本地區は南北に神田川を控へ、西部に秋葉原驛を擁するが爲、之に接する箇所は貨物の集散頻繁にして、薪炭、木材の間屋並同運送業者等多し、地區の中部を縦貫せる通稱和泉橋通、北部の地區界を爲す厩橋通及東部の地區界を爲す鳥越通は何れも交通多く商



業殷盛なり、其の他は小商店又は雜貨製造業者等稠密し其の間に住宅介在す、仲御徒町三丁目には東京中央電話局下谷分局、同町二丁目には東京市電氣局下谷變電所、御徒町二丁目には東京市御徒町尋常小學校、仲御徒町一丁目には東京市練堀尋常小學校、二長町には東京區裁判所二長町出張所、東京中央郵便局厩舎、凸版印刷株式會社工場及市村座等あり。

整理前地區の概況



# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區整理委員及同補闕委員の選舉

第三十一地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各二十人にして、其の選舉を大正十三年六月十三日下谷區役所に於て執行したるに何れも左記の通常選したり。

#### 一 土地區劃整理委員

##### 土地所有者の部

佐野朝宜

俵野國三郎

石黒又四郎

戸刈喜三郎

山崎金五郎

長岡景英

上野啓吉

金井徳右衛門

岩井彬太郎

小野寺重兵衛

##### 借地権者の部

伊藤林作

金子東一

長野高一

永井龜之助

田村隆三郎

中林軍平

黒川義勝

吉田太郎吉

佐藤啓太郎

小谷野平助

#### 二 同上補闕委員

##### 土地所有者の部

飯田代作

齊木保

阿久津友助

上野巖

笹本孫太郎

有山定次郎

黒川新次

岡田熊吉

中島龜次郎

岡部保全合資會社



借地権者の部

小竹 金 藏                      内島安次郎                      松崎助七                      吉田秀吉                      田中貞一  
染谷藤治郎                      藤島廣吉                      奥山幸次郎                      藤島治郎吉                      酒井要一郎

第二 議長及副議長の選挙

大正十三年六月二十八日麴町區有樂町一丁目保険協會に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長金井徳右衛門議長の選挙を執行したるに、左記の通常選したり。

議長

山崎金五郎

議長山崎金五郎副議長選挙の方法を諮りたるに、議長の指名に決したるを以て、左の如く指名したり。

副議長

金子東一

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

一 土地所有者選出委員長岡景英大正十四年十二月十二日辭任したるに因り、大正十五年一月十三日同補闕委員飯田代作補充せらる。

二 借地権者選出委員中林軍平大正十三年十二月二十七日失格したるに因り、同日同補闕委員小竹金藏補充せらる。

三 借地権者選出委員吉田太郎吉大正十三年十二月二十七日失格したるに因り、同日同補闕委員内島安次郎補充せらる。

四 借地権者選出委員小谷野平助大正十五年八月十五日死亡したるに因り、同日同補闕委員吉田秀吉補充せらる。



## 第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十三年八月十五日諮問 委員會四回開催 大正十四年四月二十二日原案可決の上答申

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十三年八月十五日諮問 委員會五回開催

大正十三年十二月十九日一部原案を可決し、大正十四年十二月二十二日殘部を修正決議し其の都度答申

### 議事要綱

本件中竹町に付ては竹町公園敷地除斥に關し質問續出し、又二長町に付ては遞信省用地(郵便局既舎敷地)を他に換地し其の跡地に練堀小學校を移轉するの希望ありて議容易に纏らず、遂に大正十三年十二月十九日右兩町の決議を保留し他を原案の通可決したり、依て當局は右兩町に就き種々講究の結果、竹町公園は同年十二月二十七日本地區より除斥して區劃整理と別個に計畫するに決し、又遞信省用地二千四百六十一坪七合五勺は内務省に於て買收減歩緩和に充當するに決したる爲議事進捗し、大正十四年十二月二十二日修正決議を見るに至れり。

三 諮問第三號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十三年九月三十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し大正十三年九月二十日限復興局に出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十三年八月十五日諮問 同日原案可決の上答申



四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十四年六月五日諮問 委員會三回開催 同年八月十三日修正決議の上答申

五 諮問第五號 換地面積並整理後土地各筆平均坪當指數決定に關する件 (地區全部)

大正十四年六月十六日より昭和二年三月十六日まで五回に分ちて諮問 委員會十六回開催 大正十四年八月十三日より昭和二年五月二十三日迄十二回に原案可決の上同二年五月二十三日一括答申

六 諮問第七號 既決換地面積一部變更の件 (御徒町一丁目の一部)

大正十五年十二月二十四日諮問 同日原案可決の上答申

七 諮問第六號 既決換地位置面積一部變更の件 (御徒町二丁目、竹町、佐久間町一丁目及二長町の各一部)

昭和二年三月二日諮問 委員會二回開催 同年五月二十三日原案可決の上答申

八 諮問第七號 既決換地位置面積一部變更の件 (竹町、花房町及佐久間町一丁目の各一部)

昭和二年三月二日諮問 同日原案可決の上答申

九 諮問第七號 既決換地面積並整理後土地各筆平均坪當指數一部變更の件 (松永町及練堀町の各一部)

昭和二年十月十九日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は當初面積決定の際、東京青物市場引込線計畫を考慮して換地設計を爲したるも、引込線の計畫遅延せるが爲區劃整理事業の速進上、引込線計畫を爲さざることに變更したるものにして、種々議論ありたるも、審議の結果原案の通可決したり。

一〇 諮問第八號 既決換地面積一部變更の件 (佐久間河岸の一部)



論ありたるも、審議の結果原案の通可決したり。

一〇 諮問第八號 既決換地面積一部變更の件 (佐久間河岸の一部)

昭和三年二月二十八日諮問 同年三月三日原案可決の上答申

一一 諮問第九號 既決換地位置並面積一部變更の件 (二長町、御徒町一丁目、同二丁目、松永町、仲御徒町、三丁目、練堀町、花房町及佐久間町一丁目の各一部)

昭和四年一月十八日諮問 委員會二回開催 同年二月十五日原案可決の上答申

一二 諮問第十號 整理前後路線價指數及土地各筆平均坪當指數一部變更の件 (整理前、仲御徒町三丁目、竹町、二長町、御徒町一丁目の各一部、整理後、各町の一部)

昭和四年一月十八日諮問 同年二月十五日原案可決の上答申

一三 諮問第十一號 土地各筆清算に關する件

昭和四年一月十八日諮問 委員會二回開催 同年二月十五日原案可決の上答申

一四 諮問第十二號 換地處分に關する件

昭和四年三月四日答申期限を同年三月二十日迄として諮問 委員會二回開催 同年三月十九日原案可決の上答申

一五 諮問第十三號 補償金の配當に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は、補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各権利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當割合は整理前指數相當額と爲さむとす。

町	名	地	番	町	名	地	番	町	名	地	番
下谷區御徒町二丁目			一六ノ五	同			一六ノ六	同			一六ノ七

第三十一地區 甲 整地







## 第二章 整理前土地の状況

本地區の總面積は十五萬八百五十八坪一合三勺にして、内宅地面積十一萬六千八百八十八坪四合五勺、公共用地面積三萬四千六百六十九坪六合八勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割七分、公共用地二割三分なり、宅地内借地面積は六萬六千九百二十一坪七勺にして、之が宅地面積に對する割合は五割七分五厘なり。

本地區の東北部に隣接する竹町公園敷は、施行地區告示の當初本地區に編入しありたるも、公園として別途計畫の必要ありしに依り、大正十三年十二月二十七日内務省告示第七百九十二號を以て之を除斥したり。

本地區に於ける街路及河川分布の状況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の北側を本郷方面より厩橋方面に至る電車通は幅員約十間、和泉橋より本地區の西部を南北に縦貫して三ノ輪方面に至る電車通は幅員約十間にして共に交通繁し、又地區の西南部に接する電車通は御成街道として知らるゝ主要街路にして、其の幅員二十間を有し人車の交通頻繁なり。

### 二 其の他の街路

前記主要街路の外地區の東部を界する通稱鳥越通は幅員約七間乃至十間、和泉橋通の内市電松永町停留場より前記鳥越通に至る通稱市村座前通は幅員約九間半、和泉橋北詰より御成街道に至る佐久間河岸通は幅員十間なり、其の他の街路は概ね幅員狭小にして迂曲し行止のもの多く系統甚だ不規則なり。

## 三 河川



三 神田川は地區の南部を御茶ノ水方面より隅田川に通ずる本市の主要河川にして、幅員十間乃至二十一間、深度一尺四寸にして舟楫の便多く、河心を地區界とす。

### 第三章 計畫の大要

#### 第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路、運河及小公園左の如し。

#### 第一 幹線街路

第一號線は地區の南部和泉橋より鐵道高架線に並行して北上し、上野驛方面に至る幅員四十四米の街路にして、在來電車通の兩側に擴張せり、第二十二號線は本郷區湯島方面より鐵道高架線を過ぎ地區の中央を東西に幹線第一號、補助線第八十七號、同第八十五號及地區界の幹線三十四號と交叉して新設藏前橋方面に至る幅員二十七米の街路にして、一部舊道を利用せるの外殆ど新設なり。

第三十四號線は美倉橋方面より佐久間町及和泉町の非燒失區域東側を經、本地區の東部第三十二地區界を北上して下谷區坂本町方面に至る幅員二十二米の街路にして、在來街路の兩側に擴張せり、第五十一號線は上野廣小路方面より第三十四地區界を厩橋方面に至る幅員三十三米の街路にして、在來電車通の兩側に擴張せり。

#### 第二 補助線街路



第八十五號線は市村座前通二長町百六十八番地先を起點として北上し補助線第九十號、幹線第二十二號、補助線第九十一號、同第九十三號及地區界の幹線第五十一號と交叉する幅員十一米の街路にして二長町地内を新設し、其の以北は在來街路の兩側に擴張せり、第八十六號線は補助線第九十三號より分岐し、御徒町二丁目及竹町の界を北上し、幹線第五十一號と交叉する幅員十一米の街路にして、在來街路の西側に擴張せり、第八十七號線は市村座前通御徒町一丁目七十番地先を起點とし、御徒町一丁目と二長町との界を北上し補助線第九十號、幹線第二十二號及補助線第九十一號と交叉して補助線第九十三號に至る幅員十一米の街路にして御徒町二丁目地内は新設し、其の以南は概ね東側に擴張せり、第九十號線は幹線第一號中御徒町一丁目地内より分岐して東進し、第三十二地區に入る幅員十一米の街路にして二長町内は新設し、其の以西は在來街路の南側に擴張せり、本線は當初現在の位置より約二十四米南方に新設するの計畫なりしも、市村座及凸版印刷株式會社の半永久建築物移轉に多額の費用を要するを以て種々講究の結果、昭和三年十月五日特別都市計畫委員會の議決を経、同月十九日内務省告示第二百七十四號を以て現在の位置に変更せり、第九十一號線は本郷區弓町方面より鐵道高架線を過ぎ幹線第一號、補助線第八十七號と交叉し、竹町公園西南隅に於て補助線第八十五號に合して終る幅員十一米の街路にして、鐵道高架線下より補助線第八十七號迄は新設し、其の他は兩側に擴張せり、第九十三號線は本郷區湯島天神町一丁目方面より鐵道高架線を経、幹線第一號、補助線第八十五號と交叉する幅員十一米の街路にして、鐵道高架線下より御徒町二丁目界迄は新設し、其の他は在來街路を兩側に擴張せり。

### 第三 區劃整理街路

地區の西南部を界する幅員三十六米の御成街道及幅員十二米乃至十七米の市村座前通は舊道の儘存置し、又神田川に並行せる佐久間河岸通は南側に擴張して幅員二十二米となしたる外、區劃整理街路は幅員三米、四米、五米、六米、八米、十三米、十六米及十八米にして土地の狀況に應じ且幹線補助線の連



絡に考慮を拂ひ新設擴張又は改修を爲せり。

第四 運 河

神田川は國施行の改修運河にして、幅員を擴張して三十六米とし、河底を浚渫して深度一米八とせり、幅員擴張の爲切取りたる面積六十九坪六合二勺にして全部宅地なり、本川計畫は當初幅員四十七米なりしも、大正十五年八月計畫を變更して幅員を三十六米に縮少せり（第九地區参照）

第五 小公園

御徒町公園は下谷區御徒町二丁目に設置し、北は大部分東京市御徒町尋常小學校に隣し、東は幅員十米、西は六米、南は八米五の區劃整理街路に接す、其の面積九百九十九坪八合三勺なり。以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區 分	番 號	幅 員	延 長	面 積	備 考
幹 線	一	四 <sup>米</sup>	一、二七〇・九 <sup>米</sup>	一五、五五〇・〇六 <sup>坪</sup>	地區界
	二	二七	五五六・七三	四、六四六・二兩	地區界
	三	三三	四二一・九二	一、三三〇・七七	地區界
	四	三三	四四四・八七	一、三九一・九元	地區界
	五	三三	二、五八・四三	三三、九二・六六	
計	八五	一一	七〇・七六	二、三九一・二二	







合	計	一、三三・五	一、二九〇・三
	計	二、六八一・三	二、五五五・六
計		一七、八三二・四	一七、三二八・五

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十三年八月十五日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月十九日一部原案の通可決し、同十四年十二月二十二日殘部を修正決議せしも、其の後昭和二年三月二日より同四年一月十八日迄三回に亘り一部變更案を提出し、其の都度原案の通可決せり、換地面積決定に關する件は大正十四年六月十六日より昭和二年三月二日迄五回に提出し、大正十四年八月十三日より昭和二年五月二十三日迄十六回に亘り順次原案を可決したるも、其の間大正十五年十二月二十四日より昭和四年一月十八日迄六回に亘り一部變更案を提出し、其の都度原案の通可決し、同年二月十五日全部議了せり。

換地設計に因る宅地面積九萬二千四十三坪五合三勺、公共用地面積五萬八千八百四十四坪六合にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割一分、公共用地三割九分なり、宅地の内借地面積は五萬六千九百五十二坪二合二勺にして、其の宅地面積に對する割合は六割一分八厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積二萬八千七百三十五坪三合四勺、公共用地が宅地となりたる面積四千五百九十坪四合二勺、其の差引潰地面積二萬四千四百四十四坪九合二勺、減步率二割七厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調



整理前後に於ける土地の状況を表示すれば左の如し。  
整理前後土地面積調

整理後		整理前		區分	
		一五〇、八五・三 <sup>坪</sup>		總面積	
五、九五・三	九二、〇四・三	六、九二・七	一二六、一八・四 <sup>坪</sup>	内 借地面積	宅地面積
〇・六八	〇・六一〇	〇・五七五	〇・七七〇	る積の借割にの宅地 割合に對する面積	の宅地 對する面積
五、八四・〇		三、六九・六		地面積	公共用
〇・三九〇		〇・二五〇		面積の總 面積に對 する割合	公共用地
	二四、一四・九 <sup>坪</sup>				潰地面積
	〇・〇七〇八二			潰地面積の 整理前宅地 面積に對す る割合	
	三、五六・〇八			潰地面積の 整理前宅地 面積に對す る割合	潰地面積の 整理前宅地 面積に對す る割合

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理後		整理前		區分	
		九八、六六・七 <sup>坪</sup>		民有地	
八、六四・九七					國有地
	二、六四・三 <sup>坪</sup>				公有地
	四、八三・八〇				計
	五、八七・四 <sup>坪</sup>				
	五、五四・六				
	一二六、一八・四 <sup>坪</sup>				
	九二、〇四・三				



第三十一地區 甲 整地

整理前公共用地面積内譯

街	國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	二、七七・三 <sup>坪</sup>	四、〇〇・一六 <sup>坪</sup>	四、〇一・四 <sup>坪</sup>	三九、八二・七 <sup>坪</sup>	—	—	五六・五 <sup>坪</sup>	—	四、一〇・三 <sup>坪</sup>	四、八四・六 <sup>坪</sup>

整理後公共用地面積内譯

街	幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	三、九二・三六 <sup>坪</sup>	八、八四・六 <sup>坪</sup>	三、五五・九 <sup>坪</sup>	三、八二・九 <sup>坪</sup>	九・六 <sup>坪</sup>	—	—	—	—	五、八四・六 <sup>坪</sup>

宅地が公共用地となりたる面積

街	幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	一〇、八六・三三 <sup>坪</sup>	四、五七・九 <sup>坪</sup>	三、一七・六 <sup>坪</sup>	三、五七・九 <sup>坪</sup>	九・六 <sup>坪</sup>	九九・八 <sup>坪</sup>	一三六・〇 <sup>坪</sup>	—	—	二八、七五・四 <sup>坪</sup>

公共用地が宅地となりたる面積



街		路		河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
國有	公有	民有	小計	—	—	四七・一五 <sup>坪</sup>	—	五五八・一七 <sup>坪</sup>	四、五九〇・四三 <sup>坪</sup>
二、六七・六九 <sup>坪</sup>	—	一、三七・四二 <sup>坪</sup>	三、九八・一〇 <sup>坪</sup>	—	—	—	—	—	—

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

以上述べたる如く本地區の平均減歩率は二割七厘にして換地設計上困難を生じたるを以て、潰地充當用として宅地七千五百八十三坪六合一勺を買收したる爲、實際潰地面積一萬六千五百六十一坪三合一勺となり、地區平均減歩率は一割四分七厘に低下したり、然るに各ブロックに於ける減歩區々にして、街路の新設擴張に依り多大の減歩を來すものあり、且鐵道敷地擴張用地充當の爲鐵道省に於て宅地を買收したるを以て各ブロック間に宅地の移出入を行ひ本地區の換地設計を終了したり、即ち移出入の主なるものは御徒町二丁目十六番ノ五外八筆三千八百八十坪八合一勺の買收地内に、同町三十六番所在御徒町小學校敷地として千二百十坪九合九勺を換地し、併せて御徒町公園九百九十九坪八合三勺を新設せり、又二長町二番ノ二遞信省用地二千四百六十一坪七合五勺を内務省用地に移管の上其の地内に仲御徒町一丁目所在練堀小學校敷地として九百四十六坪一合六勺を換地し、尙鐵道擴張用地充當の爲鐵道省に於て買收したる練堀町、佐久間町其の他七箇町に於ける合計三千五百十四坪三合七勺の土地に對し、省線沿ひに三千五百五十七坪九合六勺を換地したり。



## 第四章 土地の評價

### 第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並整理前土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十三年八月十五日土地區劃整理委員會に附議し、同十四年四月二十二日原案の通可決したるも、昭和四年一月十八日一部變更に關する件を附議し、同年二月十五日原案の通可決せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲、乙及丙の三率を適用したり、路線價指數は土地の狀況に依り四百二十五個乃至千個と評定せり、即ち御成街道の内萬世橋より仲町一丁目を経て花田町に至る間を最高千個、丙率適用の私道を最低四百二十五個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は九百四十六個、神田區仲町一丁目八番にして、最低は二百六十四個、下谷區仲御徒町二丁目四十四番ノ一なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數五千百四萬四千五百二十六個より、私道指數八萬六千九百三個を控除したる五千九十五萬七千六百二十三個にして、之を宅地總面積の十一萬六千八百八十八坪四合五勺にて除したる平均坪當指數は四百三十八個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至三割五分と定めたり。

### 第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十四年六月五日土地區劃整理委員會に附議し、同年八月十三日修正決議し、整理後土地各筆平均坪當指數に關する件は換地面積案と一括して、大正十四年六月十六日よ



整理後路線價指數に關する件は大正十四年六月五日土地區劃整理委員會に附議し、同年八月十三日修正決議し、整理後土地各筆平均坪當指數に關する件は換地面積案と一括して、大正十四年六月十六日より昭和二年三月二日に至る五回に分ち土地區劃整理委員會に附議し、昭和二年五月二十三日原案の通可決せしも、同四年一月十八日整理後路線價指數並各筆平均坪當指數一部變更案を附議し、同年二月十五日原案の通可決せり。

本地區整理後の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲及乙の兩率を適用したり、路線價指數は土地の整理狀況に依り四百三十五個乃至千二百二十個と評定せり、即ち整理前千個の個所を最高千二百二十個、竹町二十六番と二十七番との界の三米路線を最低四百三十五個としたり、路線價指數に基き算出したる土地各筆平均坪當指數の最高は千五百五十四個、神田區花田町一番ノ一にして、最低は三百五十七個、下谷區竹町八十二番なり。

換地全筆の總指數は四千八百十六萬三千九個にして、之を換地總面積九萬二千四十三坪五合三勺にて除したる平均坪當指數は五百二十三個なり。

借地權利割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至三割五分と定めたり。以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並土地各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高	400.00 円	1,110 個	537.60 円
	最低	107.00	435	208.80
路	最高	1,000 個	1,110 個	537.60 円
	最低	435	435	208.80

第三十一地區 甲 整地



第三十一地區 甲 整地

宅地總平均坪當	各筆坪當	
	最低	最高
四三八	二六四	九六六
二二〇・二四	一六・七二	四五四・〇八
五三	三五七	一、一五四
一五二・〇四	一七・三六	五三三・九二

九七六

備考 指數單價は四十八錢なり。

又整理前後に於ける所有權借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	三九、〇七二、〇二六 (内私道) 八六、九〇三 外 二、九七五、六六六	一八、七五四、五七二・四八〇 四、七三三、四四〇 一、四二八、三〇〇・四八〇	三九、一三六、〇六四 <sup>個</sup>	一八、八三四、一七〇・七二〇 <sup>円</sup>
借地權	八、九六六、八七四	四、三三八、四九九・五〇〇	八、九三二、二四五	四、二六二、六七七・六〇〇
合計	四八、〇三九、九〇〇 (内私道) 八六、九〇三 外 二、九七五、六六六	二三、〇七三、〇七二・〇〇〇 四、七三三、四四〇 一、四二八、三〇〇・四八〇	四八、一六八、三二九	二三、二六、九八八・三三〇

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。

二 整理前土地の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは五一、〇四四、五二六個なり。

三 整理前宅地の總指數私道の指數を包含せざるものは五〇、九五七、六二三個なり。







計	乙	計	乙	計	乙	計	乙	計	乙	計	乙
101,151.19	—	62,006.64	9,039.82	—	53,669.5	8,932.45	110,286.6	1,541,553.3	—	103,335.66	1,473,691.11
66,622.07	—	43,672.66	—	—	42,827.60	—	50,550.00	—	—	67,697.6	67,697.6
34,529.12	—	—	—	—	—	—	76,640.00	—	—	—	—
8,101.09	—	—	—	—	—	—	50,550.00	—	—	—	—
3,168.33	—	—	—	—	—	—	1,243,303.3	—	—	—	—

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有權と所有權者にして借地權を有するもの、借地權との清算を、乙は借地權のみの清算を掲ぐ。

二 従前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
藤堂 高寬	下谷區 二長町	三ノ五	道路	所有權	二、三九・六八 <sup>坪</sup>	一〇、九三 <sup>個</sup>	五、四七・三六 <sup>円</sup>	道路敷
大橋長五郎	神田區 佐久間町一丁目	一七ノ一(6)	宅地	賃借權	六・五〇	一、二三	五、五九・〇四	面積狭小にして獨立換地に不適當なるに
同 人	同	一七ノ一(11)	同	同	一・九二	三三	一、五〇・四同	
計					八・四三	一、四六	六、九八・〇八	







同	同 佐久間 町一丁目	二五ノ内 同	四七・四	同 佐久間 町一丁目	九 同	三四・三 同
---	---------------	--------	------	---------------	-----	--------

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの。

東京市所有地道路六十四筆三千七百八十二坪五合六勺。

潰地充當用買收地内務省所有地三十八筆七千五百八十三坪六合一勺。

### 三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權五件、地上權假登記五件、工場財團四件、抵當權二百八十件、抵當權假登記十二件、抵當權附記假登記一件、抵當權代位附記假登記二件、賃借權二件、賃借權假登記十件、請求權保全假登記一件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの所有權假登記十九件、差押一件、競賣申立七件、破産宣告一件及豫告登記一件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權千七百十七件あり。  
備考 右の外係争中の賃借權百二十八件あり。

## 第二節 清算金

### 第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年三月二十二日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は六十八萬七千六百九十圓七十六錢にして人員七百五十四人なり、又土地補償金は同月二十六日補償審査會に於て百九萬四千六百七十九圓八十四錢人員千七百四十人と決定せられたるに依り、左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。



萬七千六百九十圓七十六錢にして人員七百五十四人なり。又土地補償金は同月二十日補償金を以て百九萬四千六百七十九圓八十四錢人員千七百四十人と決定せられたるに依り、左記の通補償金を以て徵收清算金に充當處分を爲したり。

徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付補償金	
金	人員	金	人員	金	人員	金	人員	金	人員
六八七、六九・六	七五四	一、〇九四、六九・八四	一、七四〇	三四、五四・四〇	七五二	三七三、〇五・三六	三六一	七八〇、〇五・四	一、三三八

## 第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後全部普通郵便を以て之を送達せり。

## 第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は六十八萬七千六百八十九圓七十六錢なりしが、内三十一萬四千五百九十四圓四十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引三十七萬三千九十五圓三十六錢にして人員三百六十一人なり。

右徵收人員三百六十一人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百九十七人なるも、内官公署分二件を除き差引百九十五人に對し換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの九十六人にして資格者總數に對し四割九分なり。

依て右申請書を審査の上、同年六月十一日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區の清算金は、昭和四年七月より之が徵收を開始せり。

## 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は六十八萬七千六百八十九圓七十六錢にして昭和四年三月二十九日之



が支拂を開始し、同五年三月二十八日迄に全部其の支拂を了したり。

### 第六章 土地補償金

#### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は二割七厘八〇八三なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を、整理前各權利に配當して原案を作成の上、補償審査會に提出し、昭和四年三月二十六日原案の通決定せられたり。

而して要交付補償金總額は百九萬四千六百七十九圓八十四錢にして人員千七百四十人なり。

補償金計算調書

(其の一)

摘	要	員	數
整理前宅地總面積			一一六、一八八坪四五



整理前宅地總面積	一二六、一八八坪四五
----------	------------

整理後宅地總面積	九二、〇四三坪五三
潰地面積	二四、一四四坪九二
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	〇・二〇七八〇八三
整理前宅地の一割に相當する面積	一一、六一八坪八四
補償總面積	一一、五二六坪〇八
整理前宅地總指數	五〇、九五七、六二三個
同上平均坪當指數	四三八個
指數	〇圓四八
整理前宅地坪當價格	一一〇圓二四
補償總指數	五、四八六、四二三個
補償總額	二、六三三、四八三圓〇四

(其の二)

特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	員數
	七、四八二坪六一	
	二、九七五、六二六個	
	二、九七五、六二六個	
	一、四一八、三〇〇圓四八	

第三十一地區 甲 整地



差引要交付	補償金額	補償指數	整理前指數	面積	面積	差引補償總指數	差引整理前宅地總指數
特別都市計畫法施行令							
第二十九條該當中按分							
率に依り配當のもの							
	一、〇九四、六七九圓八四	一一〇、五〇二圓七二	二二〇、二一四個	四、三九九、四五九個	七〇九坪三二	一一、一八坪〇七	五二個三三七八九七
							二、五一〇、七九七個
							四七、九八一、九九七個

(整理前指數千個當)

所有權  
借地權

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國負擔額八十萬千三百六十六圓七十二錢市負擔額二十九萬三千三百十三圓十二錢なり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

面積	金額	指數	面積	金額	指數	面積	金額	指數	備考
補償	國	負擔	市	負擔	備	考			
面積	金額	指數	面積	金額	指數	面積	金額	指數	備考
整理前面積	平均坪	國又は公有	整理前面積	平均坪	國又は公有	整理前面積	平均坪	國又は公有	備考
總指數	當指數	地指數	總指數	當指數	地指數	總指數	當指數	地指數	











區分	補償金決定額	充當額	直接交付額	
			金額	人員
國負擔	八〇、三六・七二	三四、五四・四〇	四六、七二・三三	一、二九
市負擔	二九三、三三・二二	—	二九三、三三・二二	一五
計	一、〇四、六九・八四	三四、五四・四〇	七六〇、〇五・四四	一、三八

第四 補償金の交付

前記各権利者に直接交付すべき補償金總額七十八萬八千五百四十四圓四錢中國負擔に屬する四十八萬六千七百七十二圓三十二錢は、昭和四年三月二十九日之が支拂を開始し、同六年二月二十日迄に全部其の支拂を了し、市負擔に屬する二十九萬三千三百十三圓十二錢は同四年五月十四日下谷區役所に於て之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付したる金額二十七萬三千二百六十五圓九十二錢なり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更二十件、土地名義人表示更正及變更七件、土地分合筆四十一件及土地所有權保存二件なり。



## 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前五百十七筆、整理後七百二十三筆にして、建物囑託件數は要登記のもの千二百六十一件、現存を認め難きもの六十四件なり、囑託書を東京區裁判所二長町出張所に提出したるは昭和四年六月二十六日にして、登記の完了は同年八月三十一日なり、而して登記の停止期間は換地處分の告示の日即ち昭和四年三月二十二日より五箇月餘に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を厩橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 一 土地區劃整理施行申告 | 大正十四年四月八日 |
| 一 工事著手届      | 同 十五年一月六日 |
| 一 工事完了届      | 昭和四年七月三十日 |

#### 第二 地價配賦

地價配賦案は昭和四年七月三十日之が作成を了し、同日厩橋稅務署長に提出し、同年八月三十一日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は百十二萬九千四百七十一圓十錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は二十二萬五千七百三十五圓七十四錢なり、之を前述の地價總額百十二萬九千四百七十一圓十錢より控除したる九十萬三千七百三十五圓三十六錢は即ち整理後有租地に對し配賦せられるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は二十一圓十二錢〇四五五八三



千四百七十一圓十錢より控除したる九十萬三千七百三十五圓三十六錢は即ち整理後有租地に對し配賦せられるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は二十一圓十二錢〇四五八三

なり。

地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減歩面積
一〇、九三・八六 <sup>坪</sup>	八、五五・〇八 <sup>坪</sup>	二、三八・七六 <sup>坪</sup>

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前面積有	同上總地價	坪當平均地價
一〇、九三・八六 <sup>坪</sup>	一、三九、四七・一〇 <sup>円</sup>	一二・〇七七 <sup>円</sup>

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	坪當平均地價	控除地價
二〇、三七八・七六 <sup>坪</sup>	一一・〇七七 <sup>円</sup>	二、三五、七五・七四 <sup>円</sup>

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
四、七九、五六 <sup>個</sup>	九三、七五・三六 <sup>円</sup>	二、二〇、四五・八三 <sup>円</sup>

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に從ひ地目別に掲記すれば左の如し。

整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地	宅地	100,401.10 <sup>坪</sup> 外道路 40.13	五五四	八、五五・〇八 <sup>坪</sup>	七四三	— <sup>坪</sup>	一八、八五・二五 <sup>坪</sup>	—	一八
民有免租地	私設道路	七五・二二	六	—	—	—	七五・二二	—	六



溝道 渠路	國有免租地							府有免租地	市有免租地						
	內道 路	內道 路	內道 路	內道 路	內道 路	內道 路	內道 路	敷警 地察	計	場中 敷央 地市	事都 業市 用地計 畫	敷學 地校	河 岸 地	用軌 地道	道 路
四、二〇一・三八	六二・八八	三、八八・四八	七、六四・三八	一八八・〇〇	三九七・二三	一〇二・〇〇	九三二・四九	三八・五一	一〇、四八八・三五	五〇〇・七三	一〇二・〇〇	二、一六二・八三	三、三四・五六	六六・二三	三、六六二・一六
一〇、五九四・六	四、九三・〇〇	八六・〇〇	一七〇・〇〇	二九八・〇〇	八五・〇〇	七五二・〇〇	三、五五二・〇〇	一	八	五、九二八・九	一三・〇〇	二、二五・〇〇	二、九八・〇〇	四二・〇〇	六
五、三〇一・三	一六	一	一	一	一	二	〇	三〇・〇〇	三	九	一	三	九	一	三
三、七〇七・三	三七・三	一	一	一	一	一	三七・三	一	一	一	一	一	一	一	一
四、二〇一・三八	七、九三・〇九	七、五九・三八	一八・〇〇	九三・三	一七・〇〇	一八〇・四九	一	八・五	四、五九・五	一〇〇・七五	八九・〇〇	六・八三	四三六・五八	二四・三	三、六六二・一六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	六	二	一	一	四	一	一
一	三	元	一	一	一	五	元	一	六	一	一	一	一	三	三



合 計	公 共 用 地		
	公 園	運 河	河 川
外 道 路 內 道 路 一四九、二四二・六 四〇・三三	二四、七五・六		
七三			
一五〇、八五・三	五、三七・〇七	九九・八三	六・六二
六三			
三〇、八四・四	三、七六・九	九九・八三	六・六二
三六、二四二・六	四、二〇一・六		
一五			
二五			



## 乙 建物其の他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

本地區整理前の宅地總面積は十一萬六千八百八十八坪にして、之に所在する建物の總棟數は四千六百九十一棟此の延坪數七萬七千九百九十二坪五合七勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は二十四坪七合七勺、同建物延坪數は十六坪六合三勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの四千五百八棟總棟數に對し九割六分にして、爾餘の百八十三棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり(總棟數は昭和二年十二月調復興局移轉料調書に依りたり)

## 第二章 移轉經過

### 第一節 移轉命令

本地區の換地面積決定に關する件は、大正十四年八月十三日土地區劃整理委員會に於て其の一部の決議ありたるを以て、其の部分移轉群に就き建物及工作物の現狀調査に著手し、其の調査に基き移轉工法並工程を定め、大正十四年十一月三十日第一次として御徒町一丁目の一部に所在する建物十九棟に對し、移轉命令十八通、同通知四十通を發し、爾來引續き換地面積の決定に従ひ、前記の調査施行の上之が發



竝工程を定め、大正十四年十一月三十日第一次として御徒町一丁目の一部に所在する建物十九棟に對し、移轉命令十八通、同通知四十通を發し、爾來引續き換地面積の決定に従ひ、前記の調査施行の上之が發

令に努め、昭和二年十二月二十日同町二丁目の殘部の發令を最後とし、要移轉建物四千五百八棟の内四千四百八十棟及工作物に對し、移轉命令四千六百七十一通、同通知五千九十一通を發し、爾餘の二十八棟に對しては協議其の他の方法に依りたり。

### 第二節 損害補償

移轉命令の發令に次で建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に依る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、大正十五年二月十二日以降順次之を補償審査會に提案し、審議決定を重ねること前後六十七回(變更案の決定を含む)にして昭和三年七月十日一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと六回に及び、同年九月十一日に至り全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料の總額は三百三十五萬四千五百八十圓九十六錢にして、内國負擔額二百七十九萬三千三百九十六圓六十九錢、市負擔額五十六萬三千八百八十四圓二十七錢なりしところ、國に於ては昭和六年三月末日迄に全部其の支拂を了し、市に於ては同日迄に五十六萬三千三十五圓九十三錢の支拂を爲したり。

### 第三節 移轉實施

本地區の移轉工事は大正十五年三月之に著手し、要移轉建物四千五百八棟中同年中に四百十七棟、昭和二年中に千五百四棟、同三年中に二千五百八十一棟、同四年一月中に三棟を、殘餘の三棟は特殊の事







## 丙 地下埋設物其他工作物整理

### 第一章 概 説

本地區に於ける地下埋設物其他工作物整理費中本市負擔額は六萬五千六百六十七圓六十二錢にして之を工種別に見るときは一地區集計二萬六千五百二十一圓四錢、應急整理一工事千三百六十九圓八十五錢、假本整理五千二百九十八圓四十六錢、私有管線三萬二千四百三十八圓二十九錢、道路後修三十九圓九十八錢なり、更に之を事業者別に見るときは市水道局一萬七千七百三十九圓九十錢、市土木局下水課一萬四千三百十六圓八十九錢、市電氣局百三十五圓九十九錢、東京電燈株式會社一萬六千七百五十七圓九十一錢、東京瓦斯株式會社一萬六千七百十六圓九十三錢なり、其の事業者別一覽及支拂狀況を示せば左の如し。

事業者別一覽

種 別	市水道局	市土木局 下水課	市電氣局	東京電燈 株式會社	東京瓦斯 株式會社	計
一地區集計	五、一六、九三	一三、三三〇、三三	九四、三〇	二、九三三、三	五、〇九〇、〇九	二六、五二、〇四
應急整理一工事	五五、〇五	一、〇六六、五	—	一、七、九	五、五五	一、三六、八五
假本整理	—	—	二七、一〇	五、二七一、五	—	五、二九八、四六
私有管線	二、五三、九二	—	一四、五	八、三四、四	二、五七五、二	三、四八、二
道路後修	—	—	—	三九、九	—	三九、九
計	一七、七三九、〇	一四、三六八、九	一三五、九	一六、七五七、九	一六、七六六、三	六五、六六七、三



第三十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年度別工事費支拂進捗状況

種別	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	計
一地區集計	二、八九三・四二	六、三八〇・四八	二、四〇〇・〇七	四、九七九・〇八	二六、五二・〇四
應急整理一工事		九八・七三	三六八・三		一、三九・八五
假本整理			五、七二・六	一七・二〇	五、一九・四六
私有管線	二、二六・〇三	二〇、七二・七	九、三七・六〇	七六・八	三、四八・二九
道路後修				三九・九	三九・九
計	五、〇〇三・四八	二七、三三・九	二七、四七・五	五、八〇八・四	五、六七・三
進捗歩合%	八	四	四	九	一〇〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける整理總數量は電柱百六十五本、管線路七千四百二十一間二、柵百八十四個及關係工作物にして、其の整理費十四萬七千三百三十九圓二十一錢を左記負擔區分によりたる爲本市負擔額は二萬六千五百二十一圓四錢なり、其の負擔別比率及支拂狀況を示せば左の如し。



本地區に於ける整理總數量は電柱百六十五本、管線路七千四百二十一間、柵百八十四個及關係工作物にして、其の整理費十四萬七千三百三十九圓二十一錢を左記負擔區分によりたる爲本市負擔額は二萬六千五百二十一圓四錢なり、其の負擔別比率及支拂狀況を示せば左の如し。

負擔別比率

負擔區分	潰地面積	比率	國負		市負		合計
			幹線街路費	運河費	補助線街路費	小公園費	
合計	11,935 <sup>坪</sup>	100	1,107	11,476	4,072	1,000	28,555
幹線街路費	1,107	9.3	1,107	11,476	4,072	1,000	28,555
運河費	11,476	96.1	1,107	11,476	4,072	1,000	28,555
補助線街路費	4,072	34.1	1,107	11,476	4,072	1,000	28,555
小公園費	1,000	8.4	1,107	11,476	4,072	1,000	28,555

支拂狀況

年度	水道	下水道	市電	東電	瓦斯	計
昭和二年	—	—	—	95,690 <sup>円</sup>	1,977,731 <sup>円</sup>	2,073,421 <sup>円</sup>
昭和三年	1,673,100	4,497,710	5,576	—	—	6,176,386
昭和四年	1,673,100	8,700,622	3,633	—	1,977,731	12,354,456
昭和五年	1,866,733	—	—	2,077,700	1,134,655	4,979,088
計	5,172,933	13,198,332	9,209	2,077,700	5,090,091	26,148,355



第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事中本市に於て工事を施行し本市負擔に屬するもの二件金額五十三圓五錢、又國に於て工事を施行し本市負擔に屬するもの十五件金額千三百十六圓八十錢計十七件整理費千三百六十九圓八十五錢にして、昭和四年三月二十五日より同五年三月十二日迄に全部支拂を爲せり、之を事業者別に見るときは市水道局二件金額五十三圓五錢、市土木局下水課十一件金額千八百六圓五十六錢、東京電燈株式會社三件金額百七十八圓六十九錢、東京瓦斯株式會社一件金額五十一圓五十五錢なり、其の工種別並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		下水		東電		瓦斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
道路工事	ケ所 四	五〇・五							ケ所 四	五〇・五
建物支障									ケ所 四	九五・三六
其他										
電柱										
管線路										
其他										
計										







第三十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事種別

種別	市		電		東		合	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
交通支障 管線路	—	—	—	—	—	—	—	—
	四本	二七・一〇	九本	五、一五八・三〇	一〇三本	五、一八五・四〇	四・五	一三三・〇六
計	—	二七・一〇	四・五	五、二七二・三六	—	—	—	五、二九八・四六

支拂狀況

年 度	市		電		東		合 計	
	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額
昭和四年	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事中本市負擔に屬する工事は件數二千五十五件整理費三萬二千四百三



第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事中本市負擔に屬する工事は件數二千五十五件整理費三萬二千四百三

十八圓二十九錢にして、昭和三年二月三日東電工作物整理費の支拂を最初とし、それより逐次支拂を爲し同五年八月七日水道工作物整理費の支拂を最終とし全工事費の支拂を了せり、之を事業別に見るときは水道六百二十七件金額一萬二千五百二十三圓九十二錢、市電一件金額十四圓五十九錢、東電九百二十四件金額八千三百二十四圓四十九錢、瓦斯五百三件金額一萬五千七百七十五圓二十九錢なり、尙前記の内事業者拂に屬するもの二千五十四件金額二萬九千四百四十五圓四十四錢又現金補償に屬するもの二百九十七件金額三千二百九十二圓八十五錢にして、内移設費補償一件金額五圓十八錢、再設費補償二百九十六件金額三千二百八十七圓六十七錢なり、其の事業別一覽及支拂狀況を示せば左の如し。

事業別一覽

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額		
事業者拂	六七	二、六六・二六	一	一四・五九	九三	六、九四・九一	五〇三	一〇、五九・六	二、〇五四	二九、一四五・四
現金補償 (個人拂)	五	八四七・六四	一	一	二五	一、三九・四〇	二〇	一、〇六・五三	二九六	三、二七・六七
再設費補償	一	一	一	一	一	五・一八	一	一	一	五・一八
移設費補償	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	六七	二、五三・九二	一	一四・五九	九四	八、三四・四九	五〇三	二、五五・三九	二、〇五五	三、四三・八九
合	六七	二、五三・九二	一	一四・五九	九四	八、三四・四九	五〇三	二、五五・三九	二、〇五五	三、四三・八九

備考 合計件數欄中には再設費補償件數を含まず。



年 度	事業者拂		現 金		補 償 (個人拂)		合 計		歩合%
	件數	金 額	件數	金 額	件數	金 額	件數	金 額	
昭和二年	一七〇	一、七四六・四 <sup>円</sup>	一五	三六九・六 <sup>円</sup>	—	— <sup>円</sup>	一七〇	二、一六六・〇 <sup>円</sup>	七
昭和三年	一、三六七	一八、九〇〇・五	二二	一、一八六・五	一	五・八	一、三六八	二〇、一七二・七 <sup>円</sup>	三
昭和四年	五〇七	八、三三三・二	一〇六	一、一五四・元	—	—	五〇七	九、三三七・六〇	元
昭和五年	一〇	一五・七	五	五六・七	—	—	一〇	六一・八	二
計	二、〇五四	二九、四四一・四	二九六	三、二八七・七	一	五・八	二、〇五四	三、四四八・三 <sup>円</sup>	一〇

備考 合計件數欄中には再設費補償件數を含まず。

### 第四章 道路占用

要求工事中道路後修を要したるもの、内本市負擔に屬する工事は東京電燈株式會社關係のもの四件後修費三十九圓九十八錢にして、昭和五年十月三日支拂を了せり。



第三十四地區

一、四、五、六、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



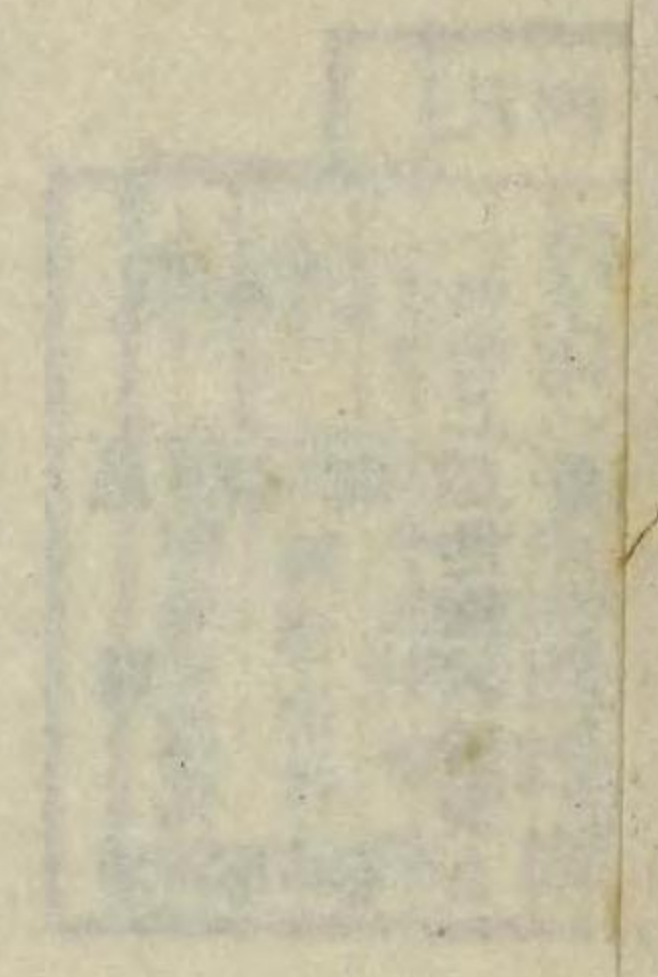
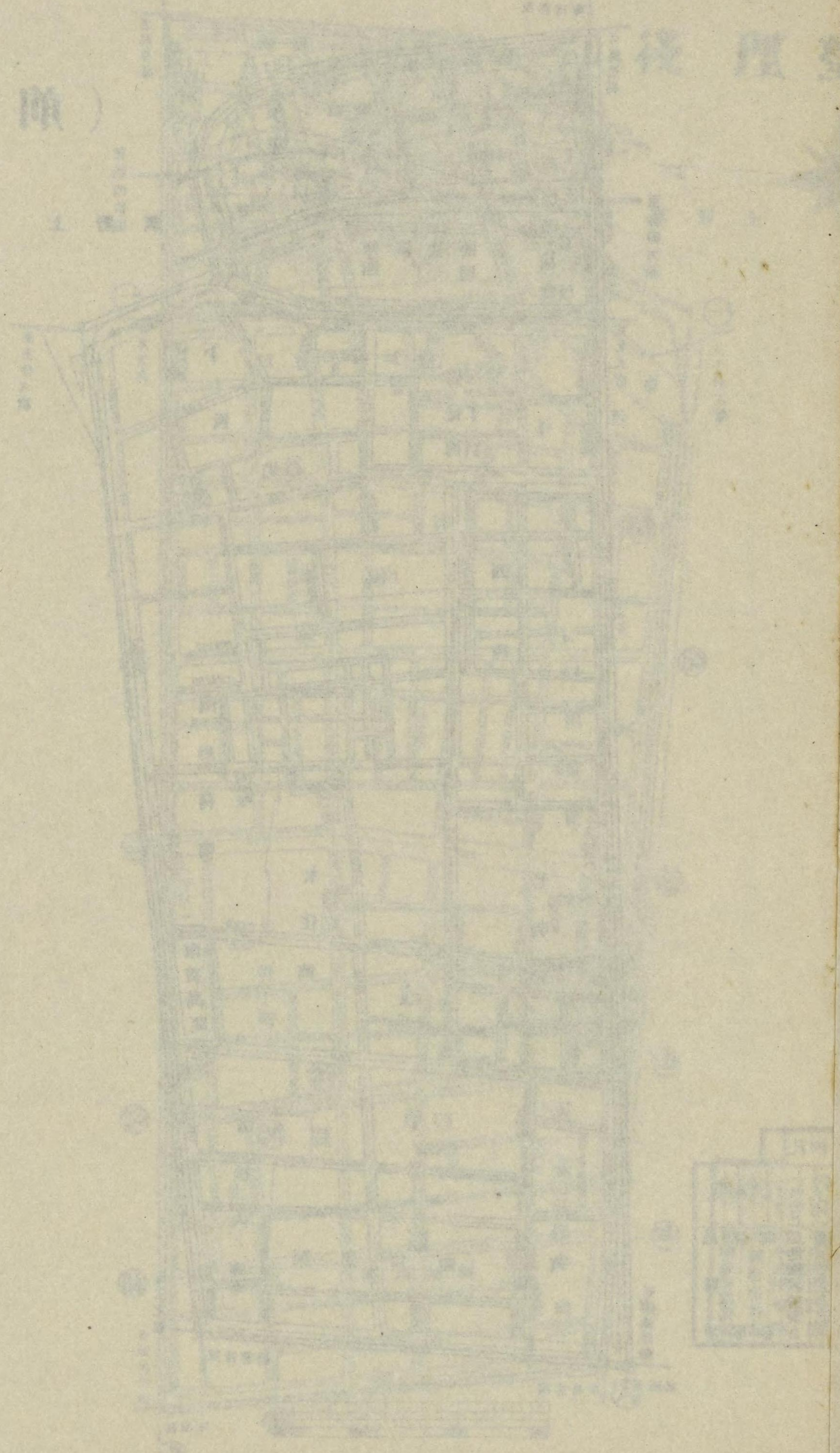




湖廣通志

卷之...

(登明殿)

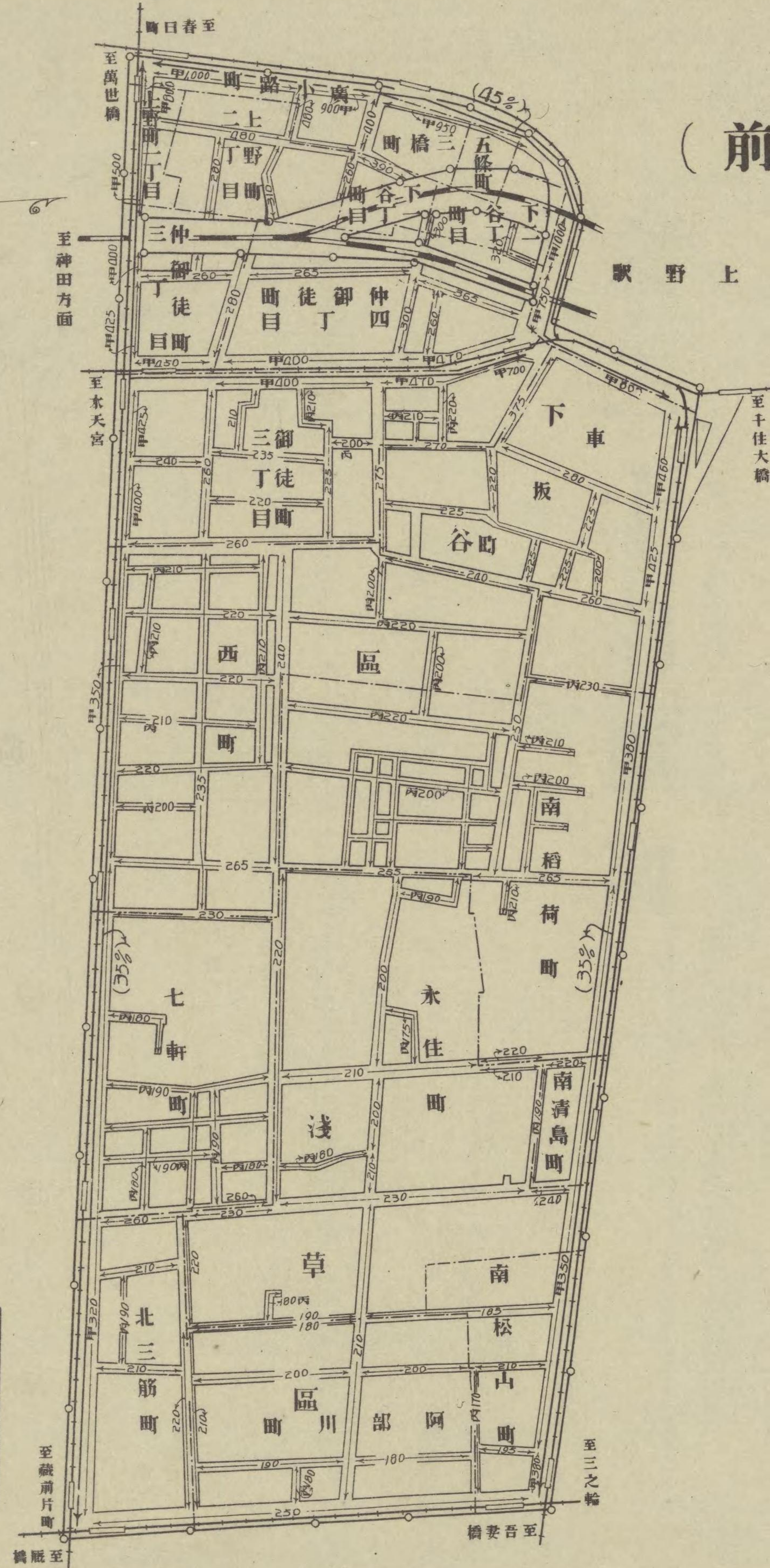
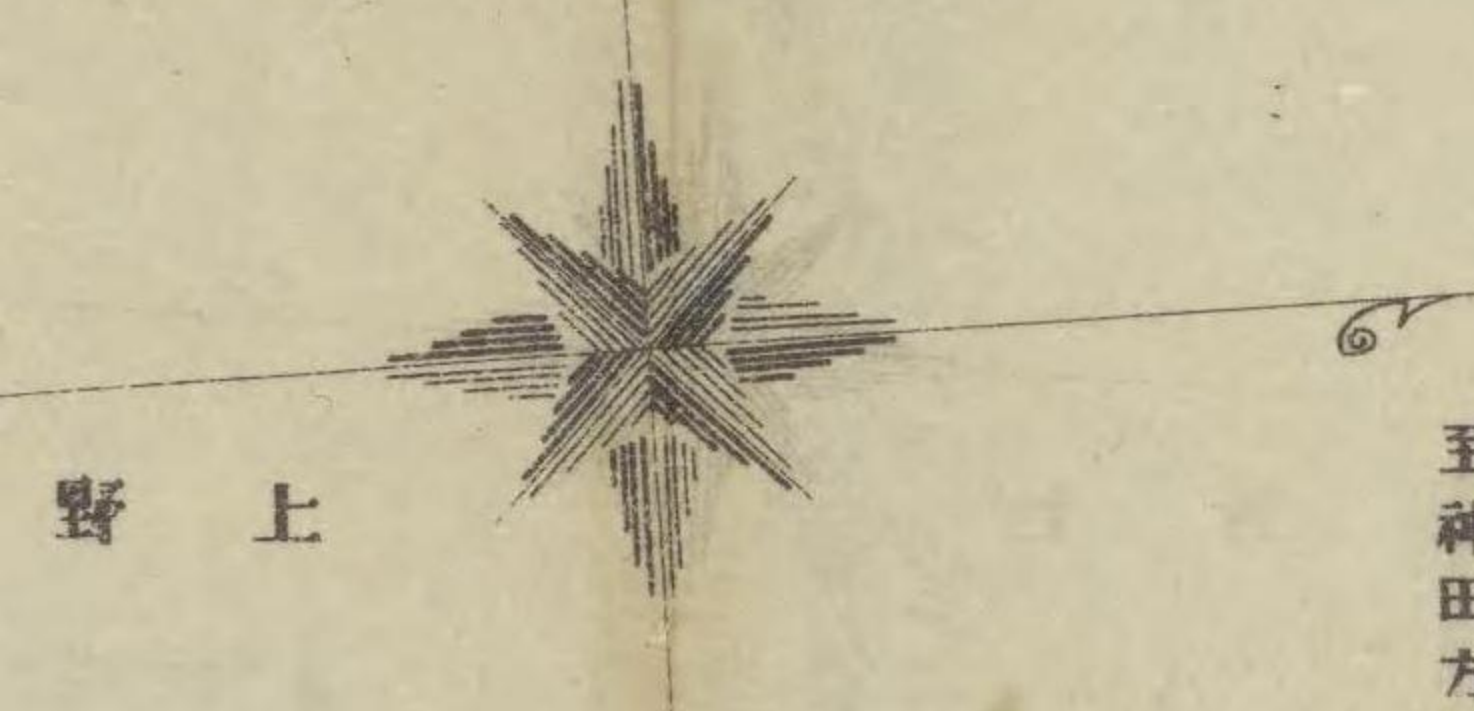




# 第三十四地整區理

理整)

(前理整)



例凡	
96	補助線街路番號
6	幹線街路番號
甲	甲率適用指
乙	乙率適用指
丙	丙率適用指
丁	丁率適用指
戊	戊率適用指
己	己率適用指
庚	庚率適用指
辛	辛率適用指
壬	壬率適用指
癸	癸率適用指
○	地界
□	區界
△	町界
◇	借地權利割合
◎	圖示以外全部
①	(35%)
②	(45%)



# 四地區整理前後概況圖

(後理整)



例凡

96	六	補助線街路番號	甲率適用路指	圖示以外全部	借地權利割合	區界	地界
		幹線街路番號	乙率適用路指	30%	(35%)	區界	地界
		丙率適用路指	丙率適用路指	20%	(45%)	區界	地界



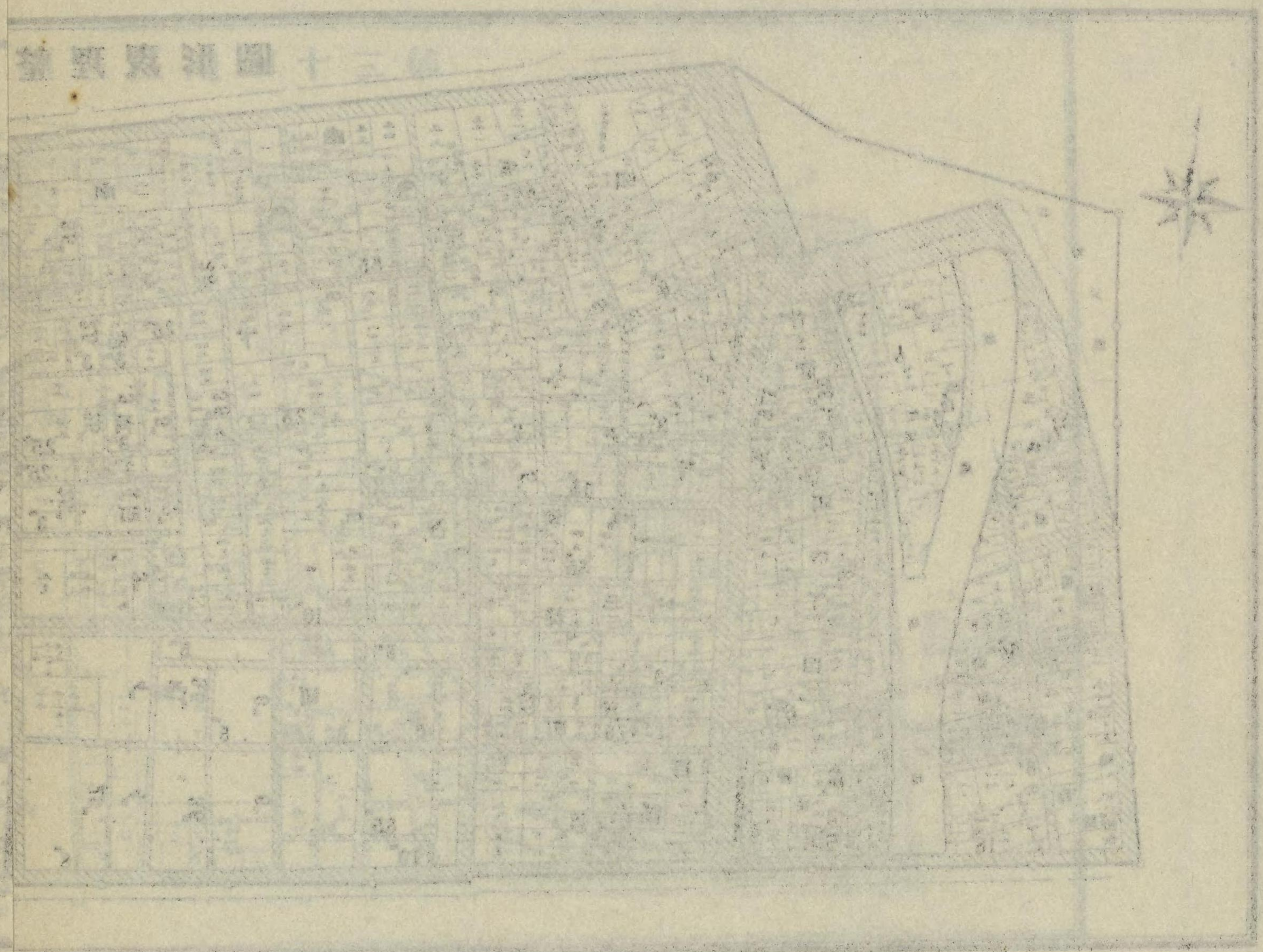
國庫總局圖

圖

(圖例)





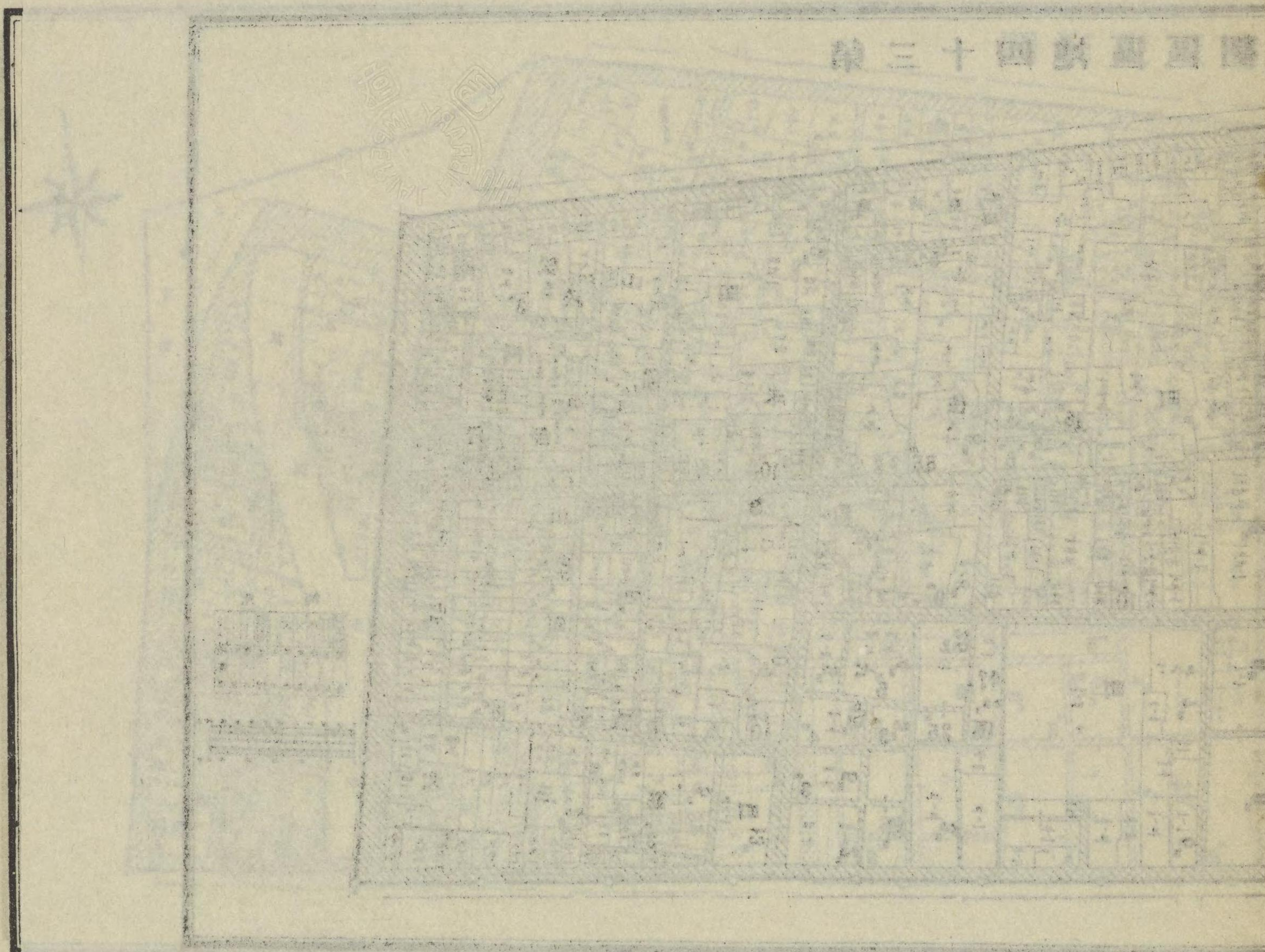


間は旅館竝飲食店其の他の店舗櫛比して、商業殷盛なり、地区内には寺院各町に存在せ

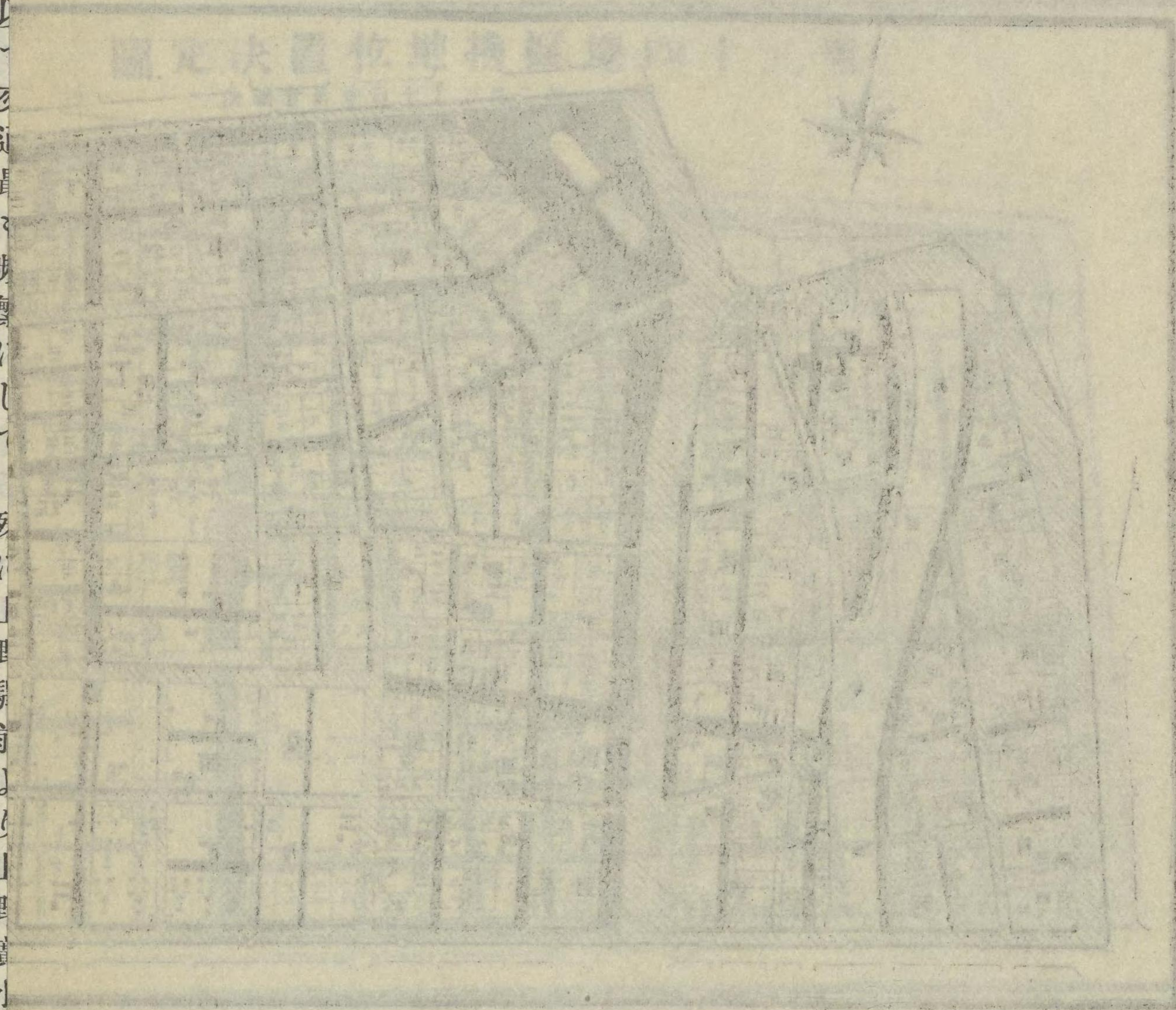
第三十四地区 整理前地区の概況



陸軍第四十三號





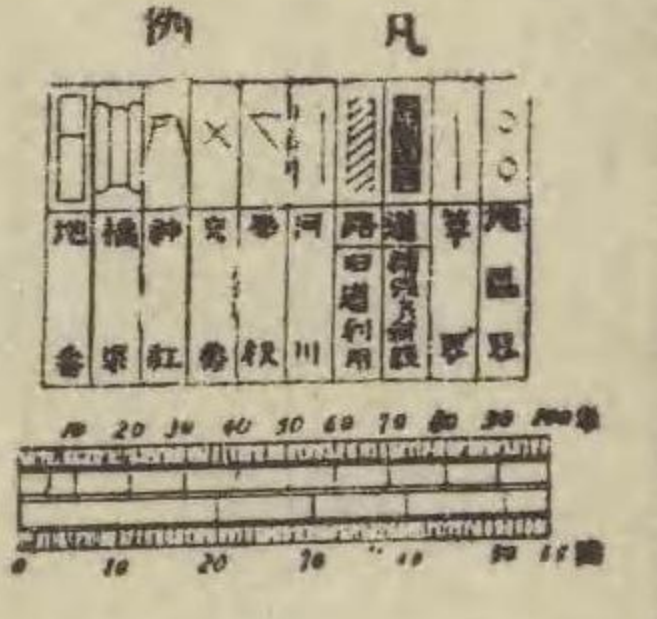


間は旅館並飲食店其の他の店舗櫛比して、商業殷盛なり、地区内には寺院各町に存在せ

第三十四地区 整理前地区の概況



第三十四區區劃整理現形圖





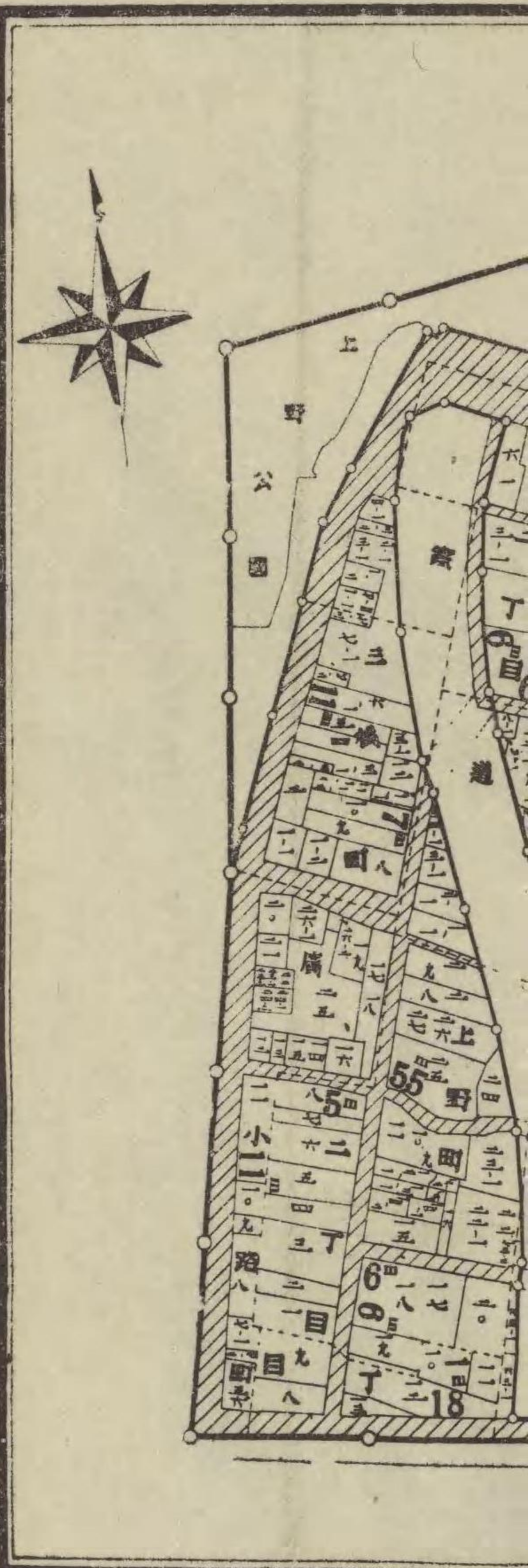
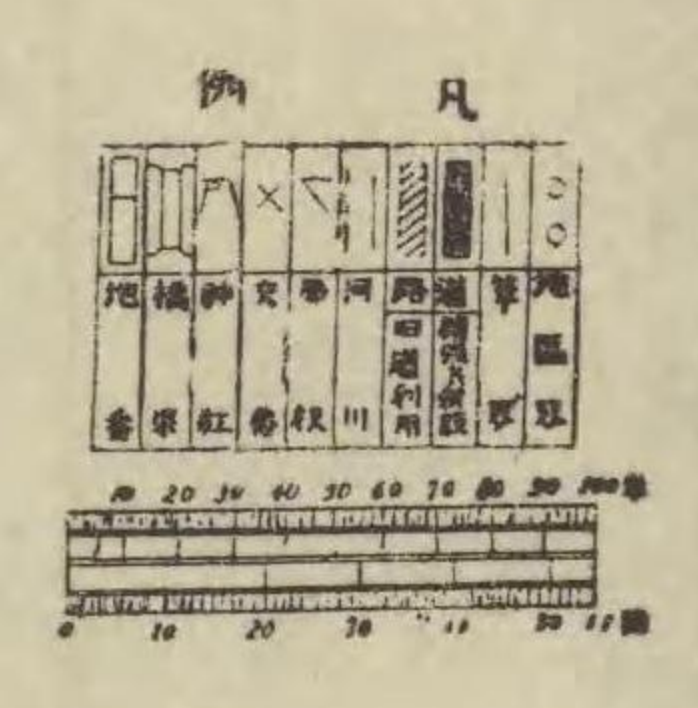
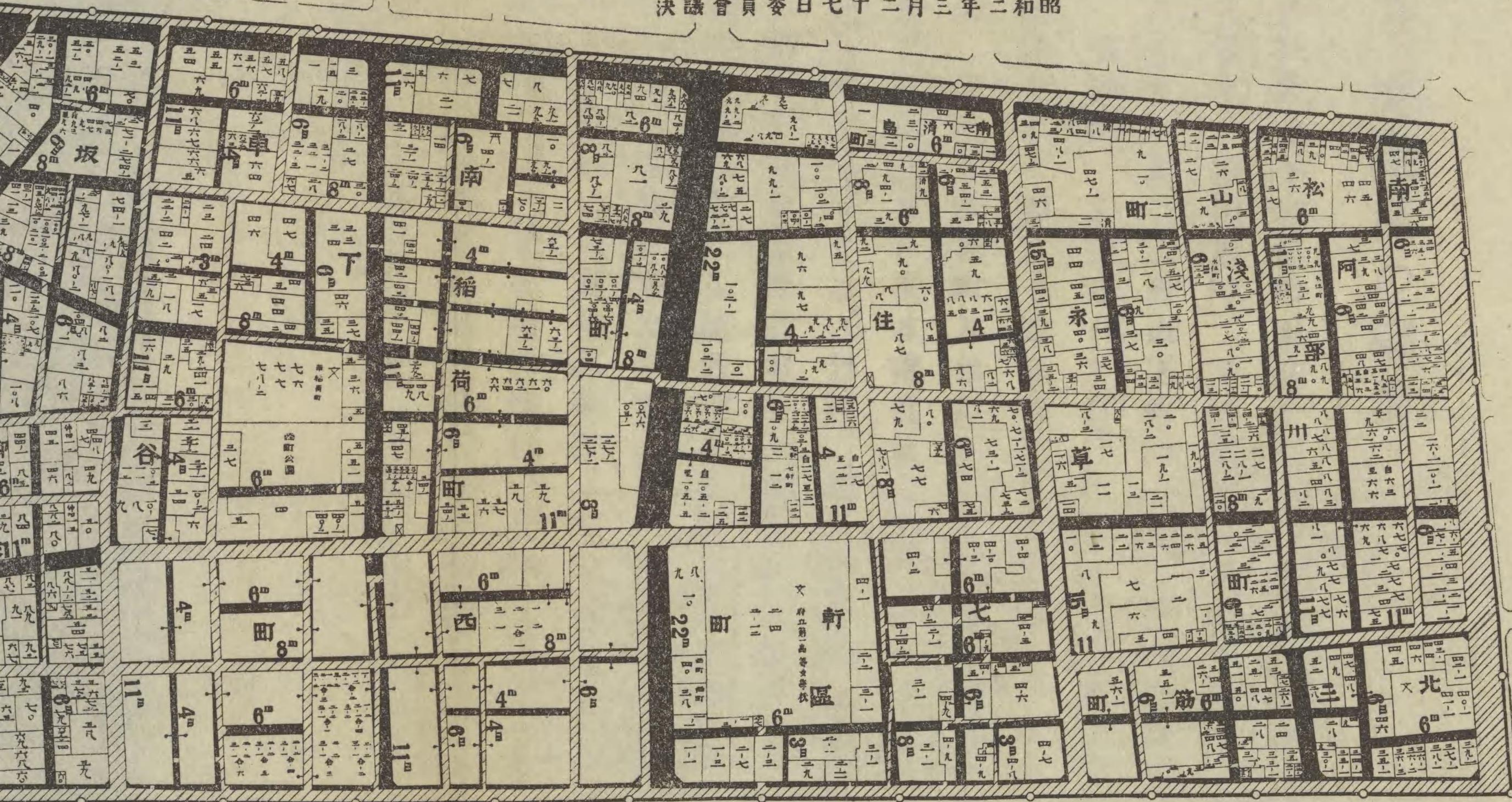
圖形現理整劃區區地四十三第





第三十四地區換地位置決定圖

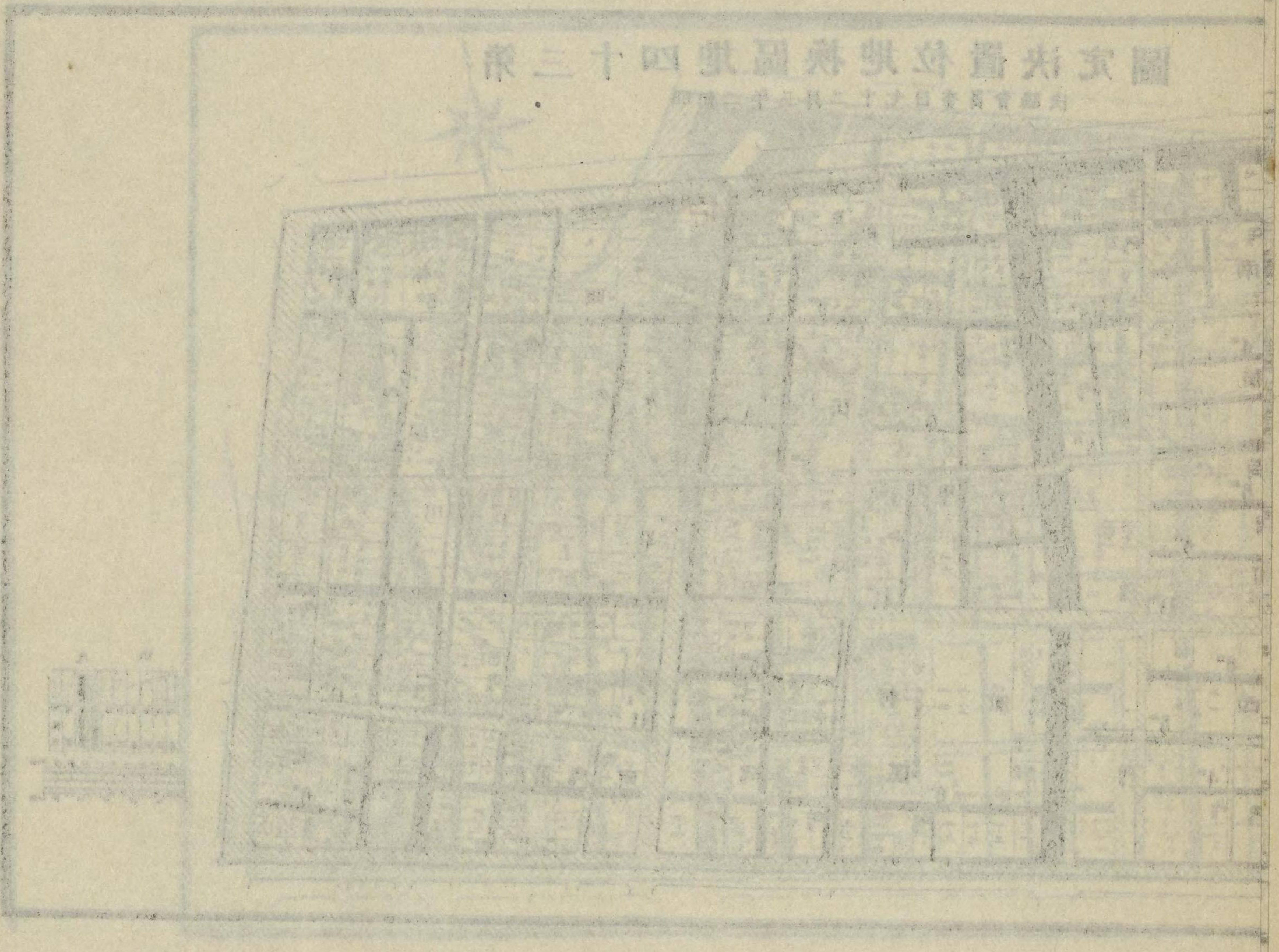
昭和二年三月二十七日會員會議決











圖式大書院縣圖四十三卷

乾隆二十二年二月二十日



## 整理前地區の概況

本地區は淺草區の西部及下谷區の東部に跨り、淺草區南松山町、阿部川町、北三筋町の一部、永住町、七軒町、南清島町、下谷區南稻荷町、西町、車坂町の一部、御徒町三丁目、仲御徒町三丁目の一部、上野山下町の一部、仲御徒町四丁目、上野町一丁目の一部、上野町二丁目、五條町、下谷町一丁目、二丁目、上野三橋町及上野廣小路の一部を包括し、東は新堀を界として第三十五地區榮久町に隣し、西は御成街道を界として第三十地區上野北大門町、上野元黒門町及地區外上野公園の臺地に面し、南は本郷湯島方面より上野廣小路を経て厩橋方面に至る電車通を以て第三十地區上野町一丁目、第三十一地區仲御徒町三丁目、御徒町二丁目、竹町、地區外竹町公園並第三十二地區小島町、西三筋町及北三筋町に接し、北は上野驛前より吾妻橋方面に至る電車通を以て上野驛、第三十六地區上車坂町、北稻荷町、北清島町及北松山町に隣接す、其の地形は東西に長く南北に短き長方形にして、地勢は概ね平坦なり、本地區の總面積は十八萬四千百九十九坪二合一勺にして、之に所在する建物總棟數は五千三百九十三棟なり、而して本地區は西北地區外に上野驛を控へ且上野公園に接し、電車四圍を包繞して淺草及千住方面への要路を爲すを以て交通最も頻繁にして、殊に上野驛前より上野廣小路電車交叉點に至る間は旅館並飲食店其の他の店舗櫛比して、商業殷盛なり、地區内には寺院各町に存在せ



るも就中地區の東北部一帯の地には數十の寺院集團して寺町を形成せり、下谷町一丁目  
に本光寺、同二丁目には下谷郵便局、車坂町に上野警察署、下谷區役所(假位置)及東京市下  
谷尋常小學校、上野廣小路町に常樂院、上野町二丁目には德大寺、南稻荷町に東京市西町  
尋常小學校、下谷神社、成就寺、唯念寺及林柔寺等、西町に井上神社、南清島町に等覺  
院、永住町に經王寺、本泉寺、本行寺、了源寺、欣淨寺、妙經寺、善立寺、東陽院、觀  
藏院、蓮妙寺、榮藏寺、光明寺、最遵寺、密藏院、妙福寺、稱念寺、善慶寺、盛泰寺、  
誓教寺、清徳寺及龍福院等、七軒町に府立第一高等女學校、華藏院、明石製作所、南松  
山町に法成寺、正覺寺、東光院及正行寺、阿部川町に養玉院、北三筋町に東京市新堀尋  
常小學校あり、尚永住町誓教寺内には葛飾北齊の墓あり、假指定史蹟とす。



# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區劃整理委員並同補闕委員の選舉

第三十四地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各二十二人にして、其の選舉を大正十三年六月十二日下谷區役所に於て執行したるに、何れも左記の適當選せり。

#### 一 土地區劃整理委員

##### 土地所有者の部

石井芳太郎	池田形藏	小林爲松	岡野誠三郎	宮坂孫四郎
太田淺吉	吉川克巳	西田嘉兵衛	清水清藏	津山敬亮
奥村善吉				

##### 借地權者の部

山越長七	村上源太郎	前田治八郎	安東守男	宗意甚藏
吉瀬運之助	石川藤太郎	足立庶幾	田中新太郎	小林藤吉
平井秀男				

#### 二 同上補闕委員

##### 土地所有者の部

第三十四地區 甲 整地



猪瀬計之助

網代喜兵衛

保坂眞太郎

山田榮次郎

山梨政平

古川庄太郎

清水市兵衛

篠田玉吉

岡本光長

岸八郎

山本龜太郎

借地権者の部

淡輪博信

本澤甚藏

見上直吉

松尾橋郎

濱田仙次郎

梅澤安太郎

八木松太郎

庄田庄造

星合啓之助

山本耕之助

久萬芳太郎

### 第二 議長並副議長の選挙及其の異動

大正十三年六月二十九日麴町區有樂町一丁目保險協會に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長石川藤太郎議長並副議長選挙の方法を諮りたるに、假議長の指名に決したるを以て左の通指名したり。

議長 太田淺吉

副議長 石井芳太郎

副議長石井芳太郎大正十五年二月十二日死亡したるに因り、同年三月四日土地區劃整理委員會に於て、議長之が選挙の方法を諮りたるに、議長指名に決したるを以て左の通指名したり。

副議長 小林爲松

副議長小林爲松昭和三年七月十五日死亡したるに因り、同年八月十三日土地區劃整理委員會に於て、議長之が選挙の方法を諮りたるに、議長指名に決したるを以て左の通指名したり。

副議長 網代喜兵衛

### 第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。



### 第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員宮坂孫四郎大正十四年九月四日辭任したるに因り、同日同補闕委員網代喜兵衛補充せらる。
- 二 土地所有者選出委員津山敬亮大正十四年九月四日辭任したるに因り、同日同補闕委員猪瀬計之助補充せらる。
- 三 土地所有者選出委員石井芳太郎大正十五年二月十二日死亡したるに因り、同月二十日同補闕委員保坂眞太郎補充せらる。
- 四 土地所有者選出委員奥村善吉大正十五年四月八日死亡したるに因り、同月十七日同補闕委員山田榮次郎補充せらる。
- 五 土地所有者選出委員小林爲松昭和三年七月十五日死亡したるに因り、同月二十日同補闕委員山梨政平補充せらる。
- 六 借地権者選出委員石川藤太郎大正十五年十二月八日死亡したるに因り、同月二十四日同補闕委員淡輪博信補充せらる。
- 七 借地権者選出委員淡輪博信昭和二年二月十五日辭任したるに因り、同月十九日同補闕委員本澤甚藏補充せらる。

#### 第二節 諮問及答申

##### 一 諮問第一號 整理前路線價指數並各筆平均坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十四年二月二十日諮問 委員會三回開催 大正十四年十一月六日路線價指數を、同年十二月十四日各筆平均坪當指數を、何れも修正決議の上十二月十四日一括答申

##### 議事要綱

第三十四地區 甲 整地



本件中路線價指數に關しては特別委員を設けて審議の結果修正決議し、各筆平均坪當指數に關しては審議の結果左記條件を附して修正決議したり。

記

「面積決定の際萬一不合理の箇所ある場合は、委員會の決議を経て訂正することあるべし」

## 二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年二月二十日諮問 委員會九回開催 昭和二年三月二十七日原案可決の上答申

### 議事要綱

本件審議中偶々某新聞紙上に於て、本地區には八百五十坪の繩延地あり、當局は整理委員會と謀りて之を西町公園の敷地若は新堀小學校の擴張敷地に充てむとし、其の間整理委員と當局との間に何等か事情介在せるものゝ如く掲載せられ、又區劃整理改善同盟會主催の演說會に於て同様趣旨の意見を述べたる者ありて、地區民をして疑惑を生ぜしめ委員會亦議事を停頓するに至れるが爲、當局は新聞社に對し記事の取消を求むると共に、印刷物を配付して地區民の誤解なきを期し、一面整理委員會は調査委員を設け其の真相を調査したるに、全く事實無根なる事判明したるを以て本案の審議進捗し、昭和二年三月二十七日原案の通可決するに至れり。

## 三 諮問第三號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年三月十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し大正十四年三月五日迄に復興局に出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年二月二十日諮問 同日修正決議の上答申

### 議事要綱



に依るものとす。  
右大正十四年二月二十日諮問 同日修正決議の上答申  
議事要綱

本件審議の結果土地臺帳面積決定期日を大正十四年四月五日に、面積誤謬訂正出願期日を同年三月三十一日に修正決議せり。

#### 四 諮問第四號 整理地區に追加編入せられたる土地の整理前面積決定期日に關する件

土地區劃整理施行地區に追加編入せられたる寺院、佛堂、境内地、墳墓地に關する土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年五月二十五日現在の土地臺帳又は國有財産臺帳面積に依らむとす、但し五月二十日限復興局に訂正出願したるものにして訂正を受けたるものは其の訂正面積に依るものとす。

右大正十四年五月一日諮問 同日修正決議の上答申

#### 議事要綱

本件審議の結果土地臺帳面積決定期日を大正十四年六月五日に、面積誤謬訂正出願期日を同年五月三十日に修正決議せり。

#### 五 諮問第五號 一部換地面積決定に關する件 (西町の一部)

大正十四年八月十四日諮問 委員會三回開催 同日原案可決の上答申

#### 議事要綱

本件審議の結果左記條件を附して原案の通可決せり。

#### 記

「清算に際し不合理の箇所を發見したるときは變更するものとす」

#### 六 諮問第六號 整理後路線價指數決定に關する件 (地區全部)

第三十四地區 甲 整地



大正十四年十二月十四日諮問 委員會二回開催 大正十五年三月九日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては特別委員を設けて調査し種々意見ありたるも、審議の結果左記條件を附して原案の  
通可決するに至れり。

記

「面積決定に際し止むを得ざる場合に限り、委員會の決議を経て變更することあるべし」

七 諮問第七號

換地面積並整理後各筆平均坪當指數決定に關する件

(地區全部、但し面積決定案は西町の一部を除く)

大正十五年六月十七日諮問 委員會十二回開催 大正十五年六月十七日より昭和二年五月三十一日迄  
八回に分ちて原案可決の上五月三十一日一括答申

議事要綱

本件に關しては設計完了のものより順次八回に亘り委員會に附議し、其の都度原案の通可決し、昭  
和二年五月三十一日左記條件を附して地區全部の議了を見たり。

記

「整理後各筆坪當指數は換地清算決定に當り、不合理なる箇所を變更することあるべし」

八 諮問第八號

既決換地面積及整理前後の路線價並各筆平均坪當指數一部變更に關する

件 (南稻荷町及御徒町  
三丁目の各一部)

大正十五年十月二十八日諮問 同月二十九日原案可決の上答申

九 諮問第九號

既決換地位置面積並整理後各筆平均坪當指數變更の件

(上野廣小路  
町の一部)

大正十五年十一月二十八日諮問 委員會二回開催 同年十二月十日原案可決の上答申



九 諮問第九號 既決換地位置面積竝整理後各筆平均坪當指數變更の件 (上野廣小路町の一部)

大正十五年十一月二十八日諮問 委員會二回開催 同年十二月十日原案可決の上答申

一〇 諮問第十號 既決換地面積一部變更の件 (永住町の一部)

昭和二年十二月六日諮問 同日原案可決の上答申

一一 諮問第十一號 既決換地面積一部變更の件 (南松山町、永住町、阿部川町、南清島町、七軒町、南稻荷町、御徒町三丁目及西町の各一部)

昭和三年二月二十二日諮問 委員會二回開催 同年二月二十七日原案可決の上答申

一二 諮問第十二號 既決換地面積一部變更の件 (南松山町、永住町、阿部川町及清島町の各一部)

昭和三年五月二十二日諮問 委員會二回開催 同月二十五日原案可決の上答申

一三 諮問第十三號 既決換地面積一部變更の件 (永住町、御徒町四丁目及下谷町の各一部)

昭和三年六月十六日諮問 委員會二回開催 同月十八日原案可決の上答申

一四 諮問第十四號 既決換地面積一部變更の件 (七軒町及永住町の各一部)

昭和三年八月十日諮問 同月十三日原案可決の上答申

一五 諮問第十五號 既決換地位置面積一部變更の件 (南稻荷町、永住町、七軒町、車坂町及阿部川町の各一部)

昭和三年十二月十八日諮問 同日原案可決し昭和四年一月三十日答申

### 議事要綱

本件は各筆清算諮問に際し、關係者の協定に依る變更を一括諮問したるものにして、審議の結果原案の通可決したり。

一六 諮問第十六號 整理前後路線價指數及土地各筆平均坪當指數一部變更の件 (各町の一部)

昭和三年十二月十八日答申期限を同四年一月二十日として諮問 委員會二回開催

同四年一月三十日原案可決の上答申

一七 諮問第十七號 土地各筆清算に關する件



昭和三年十二月十八日答申期限を昭和四年一月二十日として諮問 委員會二回開催  
同四年一月三十日原案可決の上答申

一八 諮問第十八號 換地處分に關する件

昭和四年二月六日答申期限を同月二十日として諮問 委員會二回開催 同月二十日原案可決の上答申

一九 諮問第十九號 補償金の配當に關する件

特利都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は、補償指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依り各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當額は整理前指數相當額と爲さむとす。

町名	地番	町名	地番	町名	地番
下谷區御徒町三丁目	八ノ一	下谷區南稻荷町	三八	下谷區車坂町	三八
同	五七ノ一	同	四五ノ二	同	六〇
同	六四ノ一	同	六五ノ二	同	七一ノ一
同	九六	同	七八ノ三	同	七四ノ二
同 仲御徒町三丁目	一四ノ二	同	七八ノ四	同	七六ノ二
同 西町	二一	同 車坂町	一八	同	七七
同	三六ノ二	同	三三	同	七八
同	三六	同	三四合併	同	七八
同 車坂町	三六	同	一〇五ノ二	同	八八ノ二
同	三七	同	一〇五ノ三	同	一〇五ノ一







本件は前號諮問の換地面積變更に伴ひ、大藏省並欣淨寺に對し清算したるものを、大藏省及欣淨寺と鐵道省とに分割清算する爲、換地説明書の當該部分を變更せむとする案件にして、諮問第二十一號案と共に審議の結果原案の通可決したり。

## 第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は十八萬四千九百九十九坪二合一勺にして、内宅地面積十四萬七千三十二坪七合二勺、公共用地面積三萬七千六百六十六坪四合九勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割九分八厘、公共用地二割二厘なり、宅地内借地面積は八萬千九百七十二坪二合二勺にして、其の宅地面積に對する割合は五割五分八厘なり。

本地區内に於ける街路の分布狀況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の西部第三十地區界を上野廣小路より上野公園に至り右折し、上野驛前を迂回して市電車坂町停留場に至る街路は、上野廣小路より上野公園山下に至る間は幅員約二十間乃至二十一間半、上野驛前を迂回して車坂町に至る間は約十六間、市電車坂町停留場より第三十六地區界を東走して雷門方面に至る街路は幅員十一間、上野廣小路電車交叉點より地區の南界第三十地區、第三十一地區及第三十二地區界を東進して厩橋方面に至る街路は幅員十間、和泉橋方面より北走し御徒町電車交叉點を経て上野驛前に至る街路は幅員十間、淺草藏前方面より新堀に沿ひて北上し、本地區の東部第三十五地區界を経て南千住方面に至る街路は幅員約九間半乃至十間なり、而して以上五線は何れも電車軌道の敷



上野驛前に至る街路は幅員十間、淺草藏前方面より新堀に沿ひて北上し、本地區の東部第三十五地區界を経て南千住方面に至る街路は幅員約九間半乃至十間なり、而して以上五線は何れも電車軌道の敷

設あり。

## 二 其の他の街路

厩橋通の内七軒町と北三筋町との界より北上し、永住町を経て市電清島町停留場に至る街路は幅員約五間乃至七間、地區の中央部を右街路に並行して南北に貫く街路は幅員三間乃至四間半、右街路の中間永住町百二十七番ノ二地先より東進し、阿部川町を経て地區の東部新堀沿ひ電車通に至る街路は幅員約三間乃至五間半、厩橋通の内西町と御徒町三丁目との界を北上し、車坂町電車通に至る街路は幅員二間半乃至五間半、右街路の稍南部西町九番地先より東し永住町七十二番地先に至る街路は幅員約五間半、上野町一丁目及二丁目内を御成街道に並行して南北に走る街路は幅員約三間なり、其の他は何れも幅員狭小にして且連絡を缺き、街路系統不規則にして交通不便なり。

## 第三章 計畫の概要

### 第一節 街路及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及小公園左の如し。

#### 第一 幹線街路

第一號線は和泉橋方面より北上し、地區界に於て第五十一號線と直交して本地區に入り、上野驛前に於て稍右曲し、第六號線と交叉して第三十六地區に入る幅員四十四米の街路にして、上野驛前は新設にして且廣場を設け、其の以南は在來電車通の兩側に擴張せり、第六號線は上野公園山下を起點とし、上



野驛前に於て幹線第一號と接続し第三十六地區界を東進して新設駒形橋方面に至る幅員三十三米の街路にして、上野驛前は驛側を、其の他は在來電車通を本地區側に擴張したり、第三十四號線は美倉橋方面より北上し補助線第九十五號と交叉し、地區の中央を南北に貫通する幅員二十二米の街路にして、補助線第九十五號との交叉點以南は在來街路の東側に擴張し、其の以北は新設せり、第五十一號線は地區の南部第三十地區、第三十一地區及第三十二地區界を東西に走る幅員二十二米の街路にして、在來電車通を兩側に擴張せり。

前記第三十四號線は當初南北に直線を以て貫通するの計畫なりしも、第三十六地區内に於て地下埋設物の關係上位置を變更したる爲、之れが連絡上補助線第九十五號との交叉點以北を同様變更し、昭和三年十月五日特別都市計畫委員會の議決を經、同月十九日內務省告示第二百八十一號を以て告示したり。

## 第二 補助線街路

第三十三號線は北三筋町と七軒町との界より北上して幹線第六號と交る幅員十五米の街路にして、主に在來街路の西側に擴張せり、第八十四號線は地區の東部北三筋町の中央を、前記補助線に並行して北上する幅員十一米の街路にして、北三筋町内を新設し、其の以北は在來街路の兩側に擴張せり、第八十五號線は西町の中央を北進し、幹線第六號と交る幅員十一米の街路にして、西町内は在來街路の兩側に擴張し、其の以北を新設せり、第八十六號線は西町、御徒町三丁目界を北走して補助線第九十五號と交叉し、幹線第六號に終る幅員十一米の街路にして、第九十五號線との交叉點以南は在來街路を利用し、其の以北は在來街路の兩側に擴張せり、第九十五號線は地區の西部上野廣小路町に於て御成街道を起點として東進し、鐵道高架線、幹線第一號、補助線第八十六號、第八十五號、幹線第三十四號を横切り、補助線第三十三號に終る幅員十一米の街路にして、御成街道より鐵道高架線迄は在來街路の兩側に擴張し、同所より補助線第八十六號との交叉點迄を新設し、其の以東は在來街路の北側に擴張せり、第九十



補助線第三十三號に終る幅員十一米の街路にして、御成街道より鐵道高架線迄は在來街路の兩側に擴張し、同所より補助線第八十六號との交叉點迄を新設し、其の以東は在來街路の北側に擴張せり、第九十

六號線は補助線第三十三號の内北三筋町と永住町との界より起り東走し、補助線第八十四號を経て東部地區界新堀通と交る幅員十一米の街路にして、在來街路の兩側に擴張せり。

### 第三 區劃整街街路

地區の西部第三十地區界を爲す幅員三十六米の御成街道は之を存置し、又東部地區界新堀電車通は新堀を覆蓋して之を街路に供用して存置したる外、幅員三米、四米、六米、八米及十一米にして、土地の狀況に應じ且幹線及補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴築又は改修を爲せり。

### 第四 小公園

西町公園は下谷區西町及南稻荷町に跨りて設置し、北は西町尋常小學校に隣り、東及西は大部分民地に接するも一部幅員六米及十一米の區劃整理街路に通路を有し、南は幅員六米の街路に接す、其の面積八百七十九坪六合六勺なり。

本公園は當初西町尋常小學校の北側補助線第八十五號に接し、面積約千坪として設置するの計畫なりしも、換地設計の都合上竝公園の利用を完からしむるの點より、同小學校の南側に變更設置することゝし、昭和三年十月五日特別都市計畫委員會の議決を経、同月十九日内務省告示第二百八十一號を以て告示せられたり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

#### 整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
	一	四米	五三・〇〇米	七、三三七坪	







三  
一六・六  
一六九・六一

第二節 換地設計

計	一三、三三二・六九	一三、〇〇一・〇三
計	一九、五五九・四九	六、七四四・四八
合		

換地位置決定に關する件は大正十四年二月二十日土地區劃整理委員會に附議し、昭和二年三月二十七日原案の通可決せるも、此の間大正十五年十一月二十八日一部換地位置變更案を提出し、同年十二月十日原案の通可決せり、越えて昭和三年十二月十八日土地各筆清算案を附議するに際し、更に一部換地位置變更案を提出し、同四年一月三十日原案の通可決せり、換地面積決定に關する件は大正十四年八月十四日より昭和二年五月三十日迄九回に分ちて委員會に附議し、其の都度原案の通可決し昭和二年五月三十一日議了せるも、此の間大正十五年十月二十八日より昭和三年十二月十八日迄八回に亘り一部換地面積變更案を提出し、其の都度原案の通可決せり、然るに換地處分告示後一部換地面積の變更を必要とするに至り、昭和四年八月三十日委員會に附議し、同年九月三日原案の通可決したり(第一章第二節參照)

換地設計に因る宅地面積十二萬千五百九十五坪七勺、公共用地面積六萬二千六百四坪一合四勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割六分一厘、公共用地三割三分九厘なり、宅地の内借地面積は七萬千七百七十三坪六合五勺にして、其の宅地面積に對する割合は五割八分五厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬千五百五十五坪八合四勺、公共用地が宅地となりたる面積六千百十八坪一合九勺、其の差引潰地面積二萬五千四百三十七坪六合五勺、減歩率一割七分三厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。



第三十四地區 甲 整地

整理前後土地面積調

整理後	整理前	區分		借内 地面積	宅地面積	の宅地面積 に對する 割合	の借地面積 に對する 割合	の借地面積 に對する 割合	の借地面積 に對する 割合	の借地面積 に對する 割合	の借地面積 に對する 割合
		總面積	面積								
		一八四、九三・三 <sup>坪</sup>									
		七、一七三・六五	二二、五九五・〇七								
		〇・五八五	〇・六六一								
		六、六四二・四	三七、一六四・九 <sup>坪</sup>								
		〇・三三九	〇・二〇二								
			一五、四三七・六五 <sup>坪</sup>								
			〇・一七三〇六								
			一〇、七三四・三八 <sup>坪</sup>								

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分				計
		民有地	國有地	公有地	面積	
		一〇四、三六四・五八	八、五七四	八、七〇三・〇五	三三、五九五・〇七	
		一二三、〇三・五二 <sup>坪</sup>	一四、七〇三・一〇 <sup>坪</sup>	九、一九二・一〇 <sup>坪</sup>	一四一、〇三三・七三 <sup>坪</sup>	



整理後	一四、三六・五八	八、五七・四〇	八、七三・〇五	三三、五九・〇七
-----	----------	---------	---------	----------

整理前公共用地面積内譯

街	國有	路	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	公有		小計					
補助線	四、九七・四一	小計	坪	坪	坪	坪	四、二五・五四	坪
區劃整理線	四、六〇・八二	合計	坪	坪	坪	坪	三三、二六・〇九	坪
小計	三、九〇・九〇							

整理後公共用地面積内譯

街	國有	路	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	公有		小計					
補助線	一〇、三五・七三	小計	坪	坪	坪	坪	坪	坪
區劃整理線	二九、〇〇・〇三	合計	坪	坪	坪	坪	三三、六〇・二四	坪
小計	六、七四・〇八							

宅地が公共用地となりたる面積

街	國有	路	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	公有		小計					
補助線	四、八〇・六二	小計	坪	坪	坪	坪	坪	坪
區劃整理線	一四、二三・四七	合計	坪	坪	坪	坪	三三、五九・八四	坪
小計	三〇、〇三・〇九							



公共用地が宅地となりたる面積

街		路		河川運河	公園	共同 物揚場	堤塘	溝渠	合計
國 有	公 有	民 有	小 計	坪 —	坪 —	坪 —	坪 —	坪 七〇・八	坪 六、二八・二九
二、九九・〇八	一〇四・七〇	二、三三三・六〇	五、三三七・三八						

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積を加へ、公共用地が宅地となりたる面積を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

以上述べたる如く地區平均減歩率は一割七分三厘なるも、車坂町及御徒町方面は幹線第一號、同第六號並道路廣場の新設、擴張並補助線第九十五號の新設等の爲、南稻荷町方面は幹線第三十四號、補助線第八十五號の新設等の爲、何れも減歩高率にして換地設計上困難を生じたるが故に、車坂町三十三番外二筆、下谷尋常小學校敷地九百六十二坪五合二勺並同町十八番外六筆、上野警察署敷地四百五十六坪六合三勺を、第三十六地區に移出する目的を以て内務省に於て買収したる外、尙三千二百一坪二合三勺を買収し、合計四千六百二十坪三合八勺を潰地に充當し減歩の緩和を計りたる結果、實際減歩率は一割四分六厘に低下したり、依て南稻荷町七十六番所在幹線第三十四號東側西町小學校敷地千四百四十六坪九合九勺を、西町公園北側補助線第八十五號西側に換地したるを始め、各ブロック間に宅地の移出入を行ひ換地の設計を了せり。



## 第四章 土地の評価

### 第一節 整理前土地の評価

整理前路線價指數並整理前土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年二月二十日土地區劃整理委員會に附議し、同年十一月六日路線價指數を、同年十二月十四日各筆平均坪當指數を、何れも修正の上決議せしも、同十五年十月二十八日及昭和三年十二月十八日各一部變更案を附議し、其の都度原案の通可決し、昭和四年一月三十日議了せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲、乙及丙の三率を適用したり、路線價指數は土地の狀況に依り百七十個乃至千個と評定せり、即ち上野廣小路電車交叉點角より上野廣小路町十一番地先に至る間及上野驛前下谷町二丁目地先全部を最高千個、阿部川町と南松山町との界の路線を最低百七十個と定めたり、尙北三筋町と阿部川町との界の路線並永住町と阿部川町、七軒町及南稻荷町との界を爲す各路線の一部は、一方寺院墓地に沿ふ關係を考慮し、路線の兩側を各別に評定して路線價指數を附したり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千二百二十六個、下谷區上野廣小路町五番、六番合併の一にして、最低は百一十一個、淺草區永住町百二番ノ三なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數三千三百三萬四千三百五個より、私道指數四千九百五十九個を控除したる三千三百二萬九千三百四十六個にして、之を宅地總面積の十四萬七千三十二坪七合二勺にて除したる平均坪當指數は二百二十五個なり。

借地權利價割合は國有寺地及市有墓地を九割、一般宅地を三割乃至四割五分と定めたり。

### 第二節 整理後土地の評価



整理後路線價指數に關する件は大正十四年十二月十四日土地區劃整理委員會に附議し、同十五年三月九日原案の通可決せしも、同年十月二十八日及昭和三年十二月十八日一部變更に關する件を附議し、其の都度原案の通可決し、同四年一月三十日議了せり、整理後土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年六月十七日土地區劃整理委員會に附議し、同二年五月三十一日原案の通可決せしも、大正十五年十月二十八日より昭和三年十二月十八日迄三回に亘り一部變更に關する件を同委員會に附議し、其の都度各原案の通可決し、同四年一月三十日議了せり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく甲、乙及丙の三率を適用したり、路線價指數は土地の整理狀況に依り百四十個乃至千三十五個と評定せり、即ち上野廣小路電車交叉點より上野廣小路町十一番地先に至る間を最高千三十五個、淺草區永住町内幅員三米區劃整理街路の一部を最低百四十個と定めたり、尙整理前同一路線の兩側を各別に評定したる箇所及幹線第一號の一部は、整理後も前同様土地利用の狀況を考慮し路線の兩側に各別の路線價指數を附したり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千三百三十三個、上野廣小路町五番にして、最低は百二十五個、淺草區永住町百四十四番なり。

換地全筆の總指數は三千四十九萬六千七百八十七個にして、之を換地總面積十二萬千五百九十五坪七勺にて除したる平均坪當指數は二百五十一個なり。

借地權利價割合は國有寺地及市有墓地を九割、一般宅地を三割乃至四割五分と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

## 整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調



すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000 <sup>圓</sup>	1,000.00 <sup>圓</sup>	1,055 <sup>圓</sup>	1,055.00 <sup>圓</sup>
各筆坪當	最高	1,170	1,133	1,133.00
	最低	1,136	1,110	1,150.00
宅地總平均坪當	111	111.00	115	115.00
平均坪當	115	115.00	115	115.00

備考 指數單價は一圓なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。  
整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	151,141,915 <sup>圓</sup>	151,141,915.00 <sup>圓</sup>	133,821,033 <sup>圓</sup>	133,821,033.00 <sup>圓</sup>
借地權	外	940,272.00	6,624,754	6,624,754.00
	(内私道)	4,959.00	6,624,754	6,624,754.00
合計	156,086,187	156,086,187.00	140,445,787	140,445,787.00

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。

第三十四地區 甲 整理地



- 二 整理前總指數漬地充當用買收地の指數を包含するものは三三、〇三四、三〇五個なり。
- 三 整理前宅地總指數(私道の指數を包含せざるものは三三、〇二九、三四六個なり)。

## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和三年十二月十八日土地區劃整理委員會に附議し、同四年一月三十日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は同四年二月六日同委員會に附議し、何れも同月二十日原案の通可決したるを以て、同月二十二日內務省告示第四十四號を以て換地處分を爲したる旨並土地補償金受領權利者は二月二十三日より同月二十七日迄に復興局東京第三出張所に申告を爲すべき旨告示したり、尙其の後昭和四年八月三十日換地處分變更に關する件を委員會に附議し、九月三日原案の通可決したるを以て、同月五日內務省告示第二百九十三號を以て換地處分を一部變更したる旨を告示したり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前千五十七筆、整理後九百五十三筆、借地整理前千九百三十四件、整理後千九百六十五件なり、土地權利者は所有權者整理前五百五十四人、整理後五百五十二人、借地權者整理前後共六千四百三十二人なり。

土地各筆清算に際しては整理前清算土地評定權利指數三千二百九萬四千三十三個を以て、換地の評定權利指數三千四十九萬六千七百八十七個を除したる比率〇・九五〇二三二三〇六を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。



定権利指數三千四十九萬六千七百八十七個を除したる比率〇・九五〇二三二二〇六を、整理前の各筆権利指數に乗じて整理前の比例権利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し、  
一 清算を爲したるもの

換地說明書別	從前の土地		換地		地		計算上の清算		清算		
	面積	積	面積	積	評定權利指數	權利價格	徵收	交	付	徵收	交付
甲	一三四、三六八・一八 <sup>坪</sup>	二二、八六四・二〇〇	二二、五九五・〇七 <sup>坪</sup>	二一、二四二・一九 <sup>坪</sup>	二五、四一八、四三八 <sup>圓</sup>	二五、三九六、一八二 <sup>圓</sup>	八五三、四一五・〇〇 <sup>圓</sup>	九〇六、〇〇三・二一 <sup>圓</sup>	二五三、〇〇七・四四 <sup>圓</sup>	九三三、〇〇七・〇〇 <sup>圓</sup>	二〇二、六六七・〇〇 <sup>圓</sup>
乙	—	六九、一〇八・〇三	—	五九、九三一・四六	五、〇七八、三四九	五、一〇〇、六〇五	一六〇、九八一・〇〇 <sup>圓</sup>	一四三、三七七・〇〇 <sup>圓</sup>	—	二五、九一七・〇〇 <sup>圓</sup>	二五八、一七三・〇〇 <sup>圓</sup>
計	一三四、三六八・一八	二二、八六四・二〇〇	二二、五九五・〇七	二一、二四二・一九	三〇、四二六、七八八	三〇、四九六、七八七	一、〇一四、三二六・〇〇 <sup>圓</sup>	一、〇四九、三八〇・二一 <sup>圓</sup>	二五三、〇〇七・四四	九五八、九八四・〇〇 <sup>圓</sup>	二二八、八四〇・〇〇 <sup>圓</sup>

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有權と所有權者にして借地權を有するもの、借地權との清算を、乙は借地權のみ  
の清算を掲ぐ。

二 從前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの



一 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
石川喜八郎	淺草區七軒町	三ノ三	道路	所有權	二七・〇七 <sup>坪</sup>	一、二三 <sup>兩</sup>	一、三三〇 <sup>円</sup>	私道
東京市	同 北三筋町	一三ノ三	宅地	同	三・二七	九四八	九四八・〇〇	墓地として利用し得ざるに依る
	下谷區南稻荷町	一〇一ノ二	墓地	同	四・〇〇	六〇	六〇・〇〇	墓地として利用し得ざるに依る
神谷傳兵衛	淺草區阿部川町	一六ノ一	宅地	同	二・五二	四六二	四六二・〇〇	一七ノ一と一括換地したるに依る
	下谷區車坂村	七三	道路	同	五・〇〇	七六	七六・〇〇	道路敷
吉田丹左衛門	同 上野三橋町	七ノ四	宅地	同	一・四八	一、一四	一、一四〇・〇〇	私道
若津艶五郎	淺草區七軒町	四ノ一一	道路	同	三・九七	七九	七九・〇〇	同
宇野 朗	同	四ノ一二	同	同	二・〇三	一、〇六	一、〇六五・〇〇	同
山田榮次郎	下谷區五條町	二ノ三	宅地	同	一・四二	六八〇	六八〇・〇〇	同
平野商店	同 車坂町	一一三ノ二	同	同	三・〇六	四、五五	四、五五〇・〇〇	希望申出に依る
林 柔 寺	下谷區南稻荷町	二〇ノ二(1)	墓地	賃借權	四・〇〇	五四四	五四四・〇〇	墓地として獨立利用するに適當なるを以て(三ノ一)と一括換地せしめたるに依る
高橋辰次郎	淺草區阿部川町	七(6)	宅地	同	一八・〇〇	八〇四	八〇四・〇〇	七〇(6)を増歩換地したるに依る
増岡喜平	同	一六ノ(1)	同	同	二・五二	一九八	一九八・〇〇	七〇(1)を増歩換地したるに依る
齋藤源吉	同	七(5)	同	同	五・〇〇	二三	二三・〇〇	七〇(5)を増歩換地したるに依る
合資會社 明石製作所	同 七軒町	二ノ三	宅地	所有權	二・三三	三、二三	三、二三〇・〇〇	希望申出に依る



明石製作所	同	七軒町	二ノ三	宅地	所有權	二三・五七	三、三三	三、三三・〇〇	希望申出に依る
-------	---	-----	-----	----	-----	-------	------	---------	---------

鐵道省	同	永住町	一二三ノ二	同	同	二二一・〇三	三、〇五	三、〇五・〇〇	協定に依る
合計				所有權	賃借權	五八・五三	三、七〇	三、七〇・〇〇	
						二九・五三	一、七九	一、七九・〇〇	

二 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

東京市所有地道路百二十筆四千七百五十七坪五合九勺。

潰地充當用買收地内務省所有地三十六筆四千六百二十坪三合八勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權六件、地上權假登記十七件、抵當權

三百十八件、賃借權十件及賃借權假登記五件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの假差押二件及假處分一件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權千九百五十五件あり。

備考 右の外係争中の賃借權七十四件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年二月二十二日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は八十六萬八百三十六圓にして人員八百五十人なり、又土地補償金は同月二十六日補償審査會に於て百四十萬二千七百二十八圓人員千八百六十三人と決定せられたるに依り左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處



分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金	人員	金	人員	金	人員	金	人員	金	人員
八〇、八六、〇〇	八五〇	一、四〇、七六、〇〇	一、八六三	四五、三九、〇〇	八四四	四六、五七、〇〇	四四	九四八、四九、〇〇	一、四六五

### 第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後全部普通郵便を以て之を送達せり。

### 第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は八十六萬八千三百三十六圓なりしが、内四十五萬四千三百十九圓に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引四十萬六千五百十七圓にして人員四百十四人なり。

右徴收人員四百十四人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの二百六十八人なるも、内官公署分六件を除き差引二百六十二人に對し分納申請期限を昭和四年三月二十二日とし換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの百五十五人にして資格者總數に對し五割九分なり。

依て右申請書を審査の上同四年五月二十七日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區の清算金は、昭和四年六月より之が徴收を開始せり。